

厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）
「小規模事業者等における HACCP 導入支援に関する研究」
令和元年度分担研究報告書

全国における食品への異物混入被害実態の把握

（平成 28 年 12 月～令和元年 7 月）

研究分担者	窪田邦宏	国立医薬品食品衛生研究所安全情報部第二室長
研究協力者	佐藤邦裕	公益社団法人日本食品衛生協会
	内堀伸健	日本生活協同組合連合会
	黒神英司	日本生活協同組合連合会
	入江秀之	日本生活協同組合連合会
	田近五郎	イカリ消毒株式会社
	村杉 潤	イカリ消毒株式会社
	藤村 晶	イカリ環境事業グループ 一般財団法人環境文化創造研究所
	今川正紀	さいたま市保健福祉局保健部食品・医薬品安全課
	中地佐知江	さいたま市保健福祉局保健部食品・医薬品安全課
	溝口嘉範	岡山市保健福祉局保健管理課
	天沼 宏	国立医薬品食品衛生研究所安全情報部
	田村 克	国立医薬品食品衛生研究所安全情報部

研究要旨： 近年、食品の異物混入事例に関する報道が数多く見られるように、消費者の異物混入に対する関心はこれまでになく高まっている。実際それらの喫食による健康被害が報告されているにもかかわらず、食品における異物混入の被害実態は、各自治体レベルでの報告はあるものの日本全国の状況を明確に把握できるような情報は少ない。特に健康被害を及ぼすと考えられる硬質異物についての状況の全容を示すデータは限られている。平成 30 年 6 月の食品衛生法の改正により、HACCP の考え方を取り入れた衛生管理が推進されている。各事業者が HACCP による衛生管理の取組みを進める際に、食品に混入する異物の全体像の把握、健康被害の実態、健康被害が発生した異物の材質、形状等を把握することがまず必要であり、それらの情報は危害要因分析の支援につながる事が考えられる。

本研究では、前回（平成 28 年度）の調査に引き続き、各都道府県、保健所設置市、特別区など、全 154 自治体が平成 28 年 12 月～令和元年 7 月に食品への異物

混入の苦情処理を行った事例を集め、異物混入事例の全容、食品や混入異物の種類、食品への異物混入においてリスクの高い組み合わせや混入工程等を把握し、それらを HACCP 指導に役立つ基礎データとすることを目的とした。

本調査では全 154 自治体中 150 自治体 (97.4%) から回答が得られた。苦情処理が行われた全事例は 4 年度分で 14684 件あり、事業所での混入が判明またはその可能性が高い事例はそのうちの 36.6% (5371 件) であった。事業所における混入異物としては、鉱物性異物 (金属)、合成樹脂類 (その他樹脂)、食品の一部、合成樹脂類 (ビニール)、動物性異物 (人毛)、虫 (ゴキブリ) が多いことが確認された。食品分類別では調理済み食品、菓子類、農産加工品への混入が多かった。事業所混入事例の 26.8% (1440 件) が硬質異物の混入であった。事業所における硬質異物混入事例は食品分類別では調理済み食品、菓子類、農産加工品が多く、異物分類別では鉱物性異物 (金属)、合成樹脂類 (その他樹脂)、動物性異物 (その他)、植物性異物 (木片等)、鉱物性異物 (ガラス) が多かった。事業所で硬質異物が混入した製造工程の解析では、混入は原材料由来、加熱工程、盛り付け工程で多く発生していた。事業所での混入により健康被害が発生した事例 229 件のうち 82.1% (188 件) が硬質異物の混入によるものであった。

本調査により、食品における異物混入の被害実態の全体像が把握できた。特に事業所における混入事例について、各食品分類および異物の種類の組み合わせを解析することで、各食品分類において起きやすい異物混入の概要が得られた。本調査により硬質異物の危険性が確認され、さらに混入が発生しやすい食品との組み合わせ、また混入が起こる製造工程の基礎データが得られ、これらの情報は事業所への HACCP 指導時に参照可能な異物混入実態データとして活用することが可能と考えられる。

A. 研究目的

近年、食品の異物混入事例に関する報道が数多く見られるように、消費者の異物混入に対する関心はこれまでになく高まっている。実際にそれらの喫食による健康被害も報告されているにもかかわらず、食品における異物混入被害実態は、各自治体レベルでの報告はあるものの日本全国での状況を明確に把握できるような情報は少ない。特に食品に混入する異物のうち硬質異物については、材質、形状等によっては健康被害を発生する危害

要因とされているが、やはり全国での状況の全容を示すデータは限られている。

平成 30 年 6 月の食品衛生法の改正により、HACCP の考え方を取り入れた衛生管理が推進されている。各事業者が HACCP による衛生管理の取組みを進めるには、食品に混入する異物の全体像の把握、健康被害の実態、健康被害が発生した異物の材質、形状等を把握することがまず必要であり、それらは危害要因分析の支援につながると考えられる。

これらの状況および継続的な調査の重要性に鑑み、本研究では、前回 (平成 26

年4月～平成28年11月)の調査に引き続き、全国の自治体、保健所等で異物混入の苦情処理が行われた事例を調査することにした。これにより、異物混入事例の全容、食品や混入異物の種類、食品への異物混入においてリスクの高い組み合わせや混入工程等を把握し、これを異物混入の低減対策指導に役立つ基礎データとすることを目的とした。

B. 研究方法

1. データ収集

各都道府県、保健所設置市、特別区など、全154自治体に協力を依頼し、2019年9月24日～12月16日の期間に全国における食品への異物混入に関する苦情事例の調査を行った。平成28年度に関しては平成28年12～平成29年3月、平成29年度および平成30年度はそれぞれ1年間(4～3月)、令和元(平成31)年度に関しては4～7月の事例の報告をお願いした。①上記約3年間(4年度に渡る)において、調査対象期間中に苦情処理を行った事例について、年度ごとに調査票1(表1)の様式に従い食品分類および異物分類別の件数を記入していただいた。各事例のうち事業所(製造、加工、調理現場)における混入が判明(可能性が高いものも含む)しているものについては、「製造」の欄にその件数を記入していただいた。②さらに、上記①の事業所における混入が判明(可能性が高いものも含む)している事例について、そのうちA.硬質異物の混入事例、B.健康被害のあった事例、C.報道等で大きく話題になった事例や興味深い事例については、事例ご

とに、食品名、異物の内容、異物の大きさ、健康被害の有無、混入が起きた製造工程などを調査票2(表2)の様式に従い記入していただいた。本調査での食品分類は東京都が使用している食品分類表に従うこととした(資料1-1、1-2、1-3)。

2. データ集計・解析

自治体から送付されたデータは全てMicrosoft Excelのファイルに入力・統合し、各種集計や解析を行った。調査票1をもとに、食品への異物混入被害の苦情受付の概要を集計し、異物分類ごと、食品分類ごとの件数や割合を算出した。さらに食品分類ごとに混入異物の内訳を解析した。調査票2から硬質異物混入事例および有症事例を解析した。食品分類、異物分類は調査票1に用いた分類に従った。また製造工程の分類は資料1-4に従って行った。調査票1の場合と同様、異物分類ごと、食品分類ごとの件数や割合、また食品分類ごとの混入異物の内訳を集計した。混入硬質異物の大きさ(異物の最大辺の長さ)に関しても集計を行い、有症事例に関しては具体的な名称を含めた混入異物の詳細な解析を行った。

C. 研究結果

1. 全国における異物混入被害実態の概要(調査票1総数「全体」)

協力を依頼した各都道府県、保健所設置市、特別区、全154自治体のうち150自治体(97.4%)から回答があり、それらのデータを統合し、解析を行った。いくつかの自治体ではデータの保存期間やデ

ータ管理システムの更新等の影響でデータが集計できない期間が含まれていたが今回の調査ではそのまま使用した。食品への異物混入事例の苦情は約 3 年間（4 年度に渡る）に合計 14,684 件報告されていた（H28 年度 2,171 件（ただし 12 月～3 月）、H29 年度 5,566 件、H30 年度 5,315 件、R01（H31）年度 1,632 件（ただし 4 月～7 月））。混入異物としては「虫（ハエ、ゴキブリ等）」が最も多く、全体の 23.9%を占めていた。次いで「鉱物性異物-金属」（11.0%）、「動物性異物-人毛」（10.4%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（9.4%）も多く報告されていた（図表 1A）。H28、H29、H30、R01 の各年度間で異物分類別の内訳に大きな違いは見られなかった（図表 1B～E）。

次に総数「全体」について食品分類別の件数を集計したところ、一番多かったのは「調理済み食品」（52.2%）で、ついで「菓子類」（13.7%）、「農産加工品」（8.4%）であった（図表 2A）。異物分類の場合と同様、H28、H29、H30、R01 の各年度間で食品分類別の内訳に大きな違いは見られなかった（図表 2B～E）。

さらに食品分類ごとに混入異物の内訳を解析したところ（全て 4 年度分）、「水産食品」で多かったのは「寄生虫-アニサキス」（28.7%）、「寄生虫-その他」（26.9%）、「鉱物性異物-金属」（7.6%）であった（図表 3A）。「水産加工品」で多かったのは「鉱物性異物-金属」（14.0%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（12.1%）、「動物性異物-その他」（8.7%）、「食品の一部」（8.7%）であった（図表 3B）。「畜産食品」では「鉱物性異物-金属」（15.1%）、「動物性異物-そ

の他」（12.4%）、「食品の一部」（7.9%）が多かった（図表 3C）。「畜産加工品」では「合成樹脂類-その他樹脂」（10.6%）、「食品の一部」（10.2%）、「動物性異物-人毛」（8.6%）が多かった（図表 3D）。「農産食品」では「虫-その他の虫」（24.9%）、「虫-虫卵・幼虫・蛹」（13.8%）、「虫-不明」（10.1%）が多かった（図表 3E）。「農産加工品」では「虫-その他の虫」（13.7%）、「鉱物性異物-金属」（11.3%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（10.3%）が多かった（図表 3F）。「菓子類」では「鉱物性異物-金属」（13.2%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（12.3%）、「動物性異物-人毛」（11.9%）が多かった（図表 3G）。「飲料」では最も多かった「その他」（25.2%）以外では、「虫-ゴキブリ」（12.3%）、「虫-その他の虫」（10.6%）、「虫-ハエ」（8.5%）が多かった（図表 3H）。「油脂」では「紙」（20.0%）と「食品の一部」（20.0%）が多かったが、ともに全 10 件中 2 件ずつであった（図表 3I）。「調理済み食品」では「動物性異物-人毛」（13.2%）、「鉱物性異物-金属」（11.0%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（9.2%）が多かった（図表 3J）。「惣菜半製品」では「鉱物性異物-金属」（19.3%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（11.7%）、「植物性異物」（9.1%）が多かった（図表 3K）。「その他の食品」では「虫-その他の虫」（13.5%）、「鉱物性異物-金属」（10.9%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（10.9%）が多かった（図表 3L）。「食品添加物」では全 2 件中「虫-その他の虫」と「合成樹脂類-ゴム」が 1 件ずつであった（図表 3M）。

2. 全国における異物混入被害実態の概

要（調査票 1 総数「事業所」）

全事例（「全体（A）」）14,684 件のうち、事業所での混入が判明した（可能性が高いものも含む）事例（「製造（B）」）は 5,371 件（36.6%）であった（H28 年度 694 件（ただし 12 月～3 月）、H29 年度 2,032 件、H30 年度 2,000 件、R01（H31）年度 645 件（ただし 4 月～7 月））。事業所での 4 年度分の事例の混入異物としては「鉱物性異物-金属」（10.9%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（9.9%）、「食品の一部」（9.6%）、「合成樹脂類-ビニール」（9.6%）、「動物性異物-人毛」（8.7%）、「虫-ゴキブリ」（8.1%）が多かった（図表 4A）。H28、H29、H30、R01 の各年度間で異物分類別の内訳に大きな違いは見られなかった（図表 4B～E）。

次に総数「事業所」について食品分類別の件数を集計したところ、4 年度分の合計で一番多かったのは「調理済み食品」（57.5%）で、ついで「菓子類」（14.1%）、「農産加工品」（7.6%）であった（図表 5A）。異物分類の場合と同様、H28、H29、H30、R01 の各年度間で食品分類の内訳に大きな違いは見られなかった（図表 5B～E）。

食品分類ごとに事業所での混入異物の内訳を解析したところ（全て 4 年度分）、「水産食品」で多かったのは「寄生虫-アニサキス」（27.4%）、「寄生虫-その他」（22.6%）、「鉱物性異物-金属」（10.7%）であった（図表 6A）。「水産加工品」で多かったのは「食品の一部」（15.2%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（14.7%）、「動物性異物-その他」（14.1%）であった（図表 6B）。「畜産食品」では「動物性異物-その

他」（16.6%）、「合成樹脂類-ビニール」（13.1%）、「虫-ハエ」（9.0%）が多かった（図表 6C）。「畜産加工品」では「食品の一部」（14.3%）、「合成樹脂類-ビニール」（10.4%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（10.4%）、「植物性異物」（10.4%）が多かった（図表 6D）。「農産食品」では「虫-その他の虫」（19.0%）、「植物性異物」（11.4%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（8.9%）が多かった（図表 6E）。「農産加工品」では「虫-その他の虫」（15.6%）、「食品の一部」（12.0%）、「鉱物性異物-金属」（11.2%）が多かった（図表 6F）。「菓子類」では「食品の一部」（14.4%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（12.9%）、「鉱物性異物-金属」（12.2%）、「動物性異物-人毛」（12.2%）が多かった（図表 6G）。「飲料」では「虫-ゴキブリ」（16.5%）、「食品の一部」（10.9%）、「合成樹脂類-その他樹脂」（10.0%）が多かった（図表 6H）。「油脂」では全 2 件中「合成樹脂類-ビニール」と「紙」が 1 件ずつであった（図表 6I）。「調理済み食品」では「合成樹脂類-ビニール」（12.2%）、「鉱物性異物-金属」（11.4%）、「虫-ゴキブリ」（11.0%）が多かった（図表 6J）。「惣菜半製品」では、「合成樹脂類-その他樹脂」（15.5%）、「食品の一部」（13.8%）、「動物性異物-その他」（12.1%）が多かった（図表 6K）。「その他の食品」では「食品の一部」（15.2%）、「虫-その他の虫」（13.1%）、「鉱物性異物-金属」（13.1%）が多かった（図表 6L）。「食品添加物」は該当事例がなかった。

3. 事業所での硬質異物の混入実態（調

査票 2)

調査票 2 のデータについて集計・解析を行った。事業所での混入が判明した(可能性が高いものも含む)事例(B) 5,371 件のうち、硬質と判断される異物が混入した事例は 1,440 件(26.8%)であった(H28年度 167 件(ただし 12 月~3 月)、H29 年度 542 件、H30 年度 558 件、R01 (H31) 年度 173 件(ただし 4 月~7 月)) (図表 7)。

硬質異物混入事例 1,440 件の混入異物別の内訳は「鉍物性異物-金属」(38.1%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(19.5%)、「動物性異物-その他」(13.5%) などであった(図表 8A)。H28、H29、H30、R01 の各年度で異物分類別の内訳に大きな違いは見られなかった(図表 8B~E)。

1,440 件の食品分類別の内訳としては、一番多かったのは「調理済み食品」(58.2%)で、ついで「菓子類」(17.5%)、「農産加工品」(6.9%)の順であった(図表 9A)。異物分類の場合と同様、H28、H29、H30、R01 の各年度で食品分類別の内訳に大きな違いは見られなかった(図表 9B~E)。

事業所で硬質異物が混入した事例に関して食品分類ごとに混入異物別の内訳を解析したところ(全て 4 年度分)、「水産食品」で多かったのは「鉍物性異物-金属」(43.6%)、「動物性異物-その他」(28.2%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(12.8%)であった(図表 10A)。「水産加工品」で多かったのは「鉍物性異物-金属」(39.1%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(26.1%)、「動物性異物-その他」(23.9%)であった(図表 10B)。「畜産食品」では「動物性異物-

その他」(45.5%)、「鉍物性異物-金属」(30.3%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(15.2%)が多かった(図表 10C)。「畜産加工品」では「動物性異物-その他」(21.1%)、「鉍物性異物-金属」(18.4%)、「鉍物性異物-ガラス」(15.8%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(15.8%)が多かった(図表 10D)。「農産食品」では全 13 件のうち、「植物性異物」(4 件、30.8%)、「鉍物性異物-石・砂」(2 件、15.4%)、「鉍物性異物-金属」(2 件、15.4%)、「食品の一部」(2 件、15.4%)等であった(図表 10E)。「農産加工品」では「鉍物性異物-金属」(35.0%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(24.0%)、「植物性異物」(12.0%)が多かった(図表 10F)。「菓子類」では「鉍物性異物-金属」(40.1%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(23.4%)、「植物性異物」(11.1%)が多かった(図表 10G)。「飲料」では「合成樹脂類-その他樹脂」(38.1%)、「鉍物性異物-金属」(26.2%)、「鉍物性異物-ガラス」(9.5%)、「植物性異物」(9.5%)が多かった(図表 10H)。「油脂」は該当事例がなかった。「調理済み食品」では「鉍物性異物-金属」(40.5%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(17.7%)、「動物性異物-その他」(15.6%)が多かった(図表 10I)。「惣菜半製品」では「動物性異物-その他」(53.8%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(11.5%)、「鉍物性異物-金属」(7.7%)、「植物性異物」(7.7%)、「食品の一部」(7.7%)が多かった(図表 10J)。「その他の食品」では全 12 件のうち、「鉍物性異物-金属」(6 件、50.0%)、「虫-その他の虫」(2 件、16.7%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(2 件、16.7%)、「食品の一

部」(2件、16.7%)等であった(図表 10K)。「食品添加物」は1件のみで「植物性異物」であった。

4. 事業所で硬質異物が混入した製造工程(調査票2)

調査票2から事業所で硬質異物がどの製造工程で混入したかを解析した。4年度の合計で、硬質と判断される異物が事業所で混入した事例1,440件において、「混入した製造工程不明」が539件(37.4%)と最も多く(図表 11A)、その後の解析に影響を与えると考え、これ以降の解析は「不明」を除いた901件で行うこととした。901件についての硬質異物混入工程としては、「原材料」(34.9%)、「加熱工程」(16.6%)、「その他」(14.2%)、「盛り付け」(14.0%)、「カット工程」(8.1%)が多かった(図表 11B)。

食品分類ごとに混入製造工程の内訳を解析したところ(全て4年度分)、「水産食品」で多かったのは「原材料」(78.8%)、「カット工程」(9.1%)であった(図表 12A)。「水産加工品」で多かったのは「原材料」(65.5%)、「その他」(10.3%)であった(図表 12B)。「畜産食品」で多かったのは「原材料」(61.9%)、「カット工程」(38.1%)であった(図表 12C)。「畜産加工品」では「原材料」(38.5%)、「盛り付け」(19.2%)が多かった(図表 12D)。「農産食品」では全9件のうち「原材料」(5件、55.6%)、「洗浄工程」(2件、22.2%)が多かった(図表 12E)。「農産加工品」では「原材料」(26.6%)、「その他」(26.6%)、「盛り付け」(14.1%)が多かった(図表 12F)。「菓子類」では「その他」(28.2%)、

「加熱工程」(21.8%)、「盛り付け」(13.5%)が多かった(図表 12G)。「飲料」では「盛り付け」(53.6%)、「カット工程」(17.9%)が多かった(図表 12H)。「油脂」は該当事例がなかった。「調理済み食品」では「原材料」(36.2%)、「加熱工程」(20.9%)、「盛り付け」(14.2%)が多かった(図表 12I)。「惣菜半製品」では「原材料」(85.7%)、「加熱工程」(9.5%)が多かった(図表 12J)。「その他の食品」では全8件のうち「その他」(3件、37.5%)、「加熱工程」(2件、25.0%)が多かった(図表 12K)。「食品添加物」は該当事例がなかった。

5. 健康被害が報告された事例における混入異物の種類(調査票2)

事業所における異物(硬質および硬質以外)混入により健康被害が報告された事例は、事業所における混入全事例5,371件中229件であった。その混入異物別の内訳としては「鉱物性異物-金属」(20.5%)、「動物性異物-その他」(20.5%)が突出しており、「合成樹脂類-その他樹脂」(13.5%)、「鉱物性異物-ガラス」(10.9%)が続いた(図表 13A)。229件中、硬質異物の混入によるものは188件であり、その異物分類別の内訳は、「鉱物性異物-金属」(25.0%)、「動物性異物-その他」(24.5%)、「合成樹脂類-その他樹脂」(14.4%)、「鉱物性異物-ガラス」(13.3%)等であった(図表 13B)。

6. 硬質異物混入事例における混入異物の大きさ(調査票2)

事業所での硬質異物混入事例(1,440

件)のうち異物の大きさが報告された1,077件(74.8%)について集計を行った。異物の大きさは最大辺の長さをその大きさとした。その結果、一番多かったのは10.0～19.9mm(33.3%)で、次いで0～9.9mm(33.0%)、20.0～29.9mm(15.5%)であった(図表14A)。

硬質異物の混入による健康被害が報告された事例188件のうち、異物の大きさが報告された135件について集計を行った。その結果、一番多かったのは10.0～19.9mm(35.6%)で、次いで0～9.9mm(28.9%)、20.0～29.9mm(21.5%)であり、その傾向は硬質異物全体のものと同じであった(図表14B)。

硬質以外の異物の混入による健康被害が報告された事例41件のうち、異物の大きさが報告された26件についても集計を行った。その結果、一番多かったのは10.0～19.9mm(6件、23.1%)および20.0～29.9mm(6件、23.1%)で、次いで0～9.9mm(5件、19.2%)であり、件数は少ないが、その傾向は硬質異物のもものと類似していた(図表14C)。

7. 健康被害が報告された事例における異物の詳細(調査票2)

健康被害があった事例として調査票2に報告された229件のうち、硬質異物によるもの188件およびそれ以外の異物によるもの41件について異物の詳細と件数を抽出した。その結果、件数が多かった硬質異物として、「プラスチック片(棚、容器、パック、フタ、調理器具、パレット、ハサミなど)」(19件)、「魚の骨」(15件)、「金たわし・ブラシ」(14

件)、「ガラス片(食器の一部)」(12件)、「陶器片(皿、茶碗、井など)」(11件)、「植物の一部(枝・種・芯・殻など)」(11件)が見られ、硬質以外の異物による健康被害は「ビニール片(袋の一部)」(6件)、「ゴキブリ」(4件)、「毛髪」(3件)、「ビニール片(肉の包材)」(2件)、「包装パック・フィルム」(2件)等によるものであった(図表15)。

8. 前回の調査結果との比較(調査票1および2)

前回の調査はH26～H28年度(ただしH28年度は4月～11月)の2年8カ月の期間に受け付けた苦情を対象に行った。今回の調査はH28～R01年度(ただしH28年度は12月～3月、R01年度は4月～7月)の2年8カ月の期間が対象であり、前回の調査期間から間を空けずに行われた。前回の調査結果と今回の調査結果との比較として、主要な解析(図表1A、2A、4A、5A、7、8A、9A、11B、13A、14A)について上位の結果を比較した(表3)。その結果、図表1Aや図表4Aのように、順位が若干入れ替わることがあるものの、概して、前回調査の結果と今回調査の結果の間には、混入異物や食品分類等の順位に違いは見られなかった。

D. 考察

今回の調査では154自治体中150自治体(97.4%)から回答が得られたことで、全国での食品への異物混入の概要が把握できたと考えられる。

事業所での混入が判明またはその可能

性が高いとされた事例は全事例の 36.6% であり、前回の調査時 (31.4%) と同様であった。事業所における混入異物としては、鉱物性異物 (金属)、合成樹脂類、食品の一部、動物性異物 (人毛)、虫 (ゴキブリ)、が多いことが確認された。食品分類別では調理済み食品への混入 (57.5%) が顕著に多く、続く菓子類 (14.1%)、農産加工品 (7.6%) とは大きな差が見られた。この理由としては、本調査において「調理済み食品」に分類される食品の幅が広いこと、「調理済み食品」が消費者に提供されるまでには、例えば水産食品や畜産食品と比べて工程が多く、異物が混入する機会が増えることが可能性として挙げられる。

また食品分類ごとに混入異物の傾向が異なっていた。食品分類によって製造工程や製造環境が大きく異なるため、それぞれの違いに応じた異物が混入していると考えられる。

事業所混入事例の 26.8% が硬質異物の混入であった。硬質異物混入事例についても、食品分類別では調理済み食品 (58.2%) が顕著に多く、続く菓子類 (17.5%)、農産加工品 (6.9%) と大きな差があった。異物分類別では「鉱物性異物-金属」、「合成樹脂類-その他樹脂」、「動物性異物-その他 (骨等)」、「植物性異物 (木片等)」、「鉱物性異物-ガラス」が多かった。事業所での異物混入により健康被害が報告された 229 件では硬質異物によるものが 82% を占めていることから、異物混入による健康被害の低減のためには硬質異物混入への対策が特に重要であると考えられる。しかしながら、硬質以

外の異物による健康被害 (18%) も報告されていることから、同様に対策が必要である。

混入した硬質異物の大きさ (最大辺の長さ) に関しては、件数の多い順に「10.0 ~ 19.9mm (33.3%)」「0 ~ 9.9mm (33.0%)」「20.0 ~ 29.9mm (15.5%)」であり、「0 ~ 29.9mm」の大きさが全体の 8 割以上 (81.8%) を占めている。健康被害が報告された硬質異物 135 件に関しても、この傾向は一致していた。

事業所で硬質異物が混入した製造工程の解析では、全体では混入は原材料由来 (34.9%)、加熱工程 (16.6%)、盛り付け工程 (14.0%) で多く発生していたが、食品分類別では食品分類によって硬質異物混入が多く発生する工程に違いが見られた。

4 年度にわたる各年度のデータの間で異物混入があった食品分類や混入した異物の種類の傾向に大きな差異がみられなかったことは、同様の異物混入が一定の頻度で起きていることを示しており、対策や指導の必要性が確認された。また食品分類により混入異物の種類や混入した製造工程にそれぞれ特徴があることから、それぞれの食品分類に適した対策を適用することが効果的であると考えられる。

来年度においては、自治体における食品への異物混入に関する苦情データとは別に、日本生活協同組合連合会およびイカリ消毒株式会社から食品への異物混入に関するデータが提供されており、来年度において本年度解析結果と照合しつつ、それらの解析を行う予定である。

E. 結論

今回の調査で、苦情処理事例の解析から、食品における異物混入の被害実態の全体像の把握が可能となった。特に事業所における混入事例について、食品分類および異物の種類の組み合わせを検討することで、各食品分類において起きやすい異物混入の概要が得られた。本調査により硬質異物の危険性が確認され、さらにそれが発生しやすい食品との組み合わせ、また混入が起こる製造工程の基礎データが得られ、これらの情報は事業所への HACCP 指導時に参照可能な異物混入実態データとして活用することが可能と考えられる。

謝辞

食品への異物混入調査にご協力いただきました各自治体の担当者の皆様に感謝いたします。

(参考資料)

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金
(食品の安全確保推進研究事業)【広域・
複雑化する食中毒に対応する調査手法の
開発に関する研究(研究代表者:砂川富
正)】分担研究報告書「全国における食
品への異物混入被害実態の把握」

F. 研究発表

1. 論文発表

2. 学会発表

K. Kubota, M. Tamura, Y. Kumagai, M. Imagawa, S. Nakaji, Y. Mizoguchi, H. Amanuma

Food Contamination Incidences by Foreign Materials Reported in Japan, 2014-2016

International Association for Food Protection 2019 Annual Meeting, (Louisville, Kentucky, U. S. A.) 2019 年 7 月

G. 知的財産権の出願・登録状況
特になし

(表1) 調査票1 (異物混入調査 2019年9月)

調査票1 食品分類	2018(平成30)年度(2018年4月1日~2019年3月31日)受付分																													
	ハエ		ゴキブリ		虫卵・幼虫・蛹		その他の虫		寄生虫		動物性異物			合成樹脂類			その他													
	全体	製造	全体	製造	全体	製造	全体	製造	全体	製造	石・砂	金属	その他	人毛	獣毛	人の屑	その他	ビニール	ゴム	その他樹脂類	植物性異物	紙	繊維	たばこ	調味料	食品の一部	その他			
	43	5	43	5																										
水産食品																														
水産加工品																														
畜産食品																														
畜産加工品																														
農産食品																														
農産加工品																														
菓子類																														
飲料																														
油脂																														
調理済み食品																														
そうめん製品																														
その他の食品																														
食品添加物																														

「全体」セルには総件数、うち「製造、加工、調理現場」での混入数を「製造」セルに記入して下さい。
 「0件」の場合は、空欄のまま結構です(「0」を記入する必要はありません)。

例は、水産食品へのハエの混入が全体で43件あり、そのうち5件が「製造、加工、調理現場」での混入が確認された場合の件数
 タイトル例は、苦情の受付日が2018年度のデータの場合

(表2) 調査票2 (異物混入調査 2019年9月)

自治体名	事業番号	苦情受付日(年月まで)	食品名	異物の内容(具体的に)	異物の大きさ	健康被害の有	異物が起きた製造工程(具体的に)	回収の有無(自主回収、回収命令)	備考(その他特記事項があれば)
〇〇県	1	2016年12月	鶏の缶詰	金属異物、材質:ステンレス	直径7mm	無	無	有、自主回収	
〇〇県	2	2017年1月	参りつりの漬物	紙物(石)、材質:石英	1mm×2mm×5mm	有	充填工程において、経年劣化による金属部品の混入 運別工程での脱落とし、製造工程で発見された。	有、混入事例を巡り当該事業者は自主回収を実施。	
〇〇市	3	2018年2月	アノゴ蒲焼	紙物、材質:アルミ	約3cm×1.5cmに伸ばる、弯曲した形状	なし	冷凍アノゴ蒲焼の生産工程の段階で、検知できないまま生産ラインを流れた可能性がある。		

(資料1-1) 食品の分類表1 (東京都の分類表を使用)

食品の分類

大	中	小
水産食品	鮮魚介類	魚類
		貝類
		カキ
		甲殻類(エビ、カニ類、アミ類、シヤコ等)
		軟体類(イカ、タコ類等)
		その他の鮮魚介類(ウニ、ホヤ、ナマコ、魚介類の内臓、魚卵、魚介類の盛り合わせ等)
	鯨肉	鯨肉及びその加工品(さらし鯨、鯨肉ベーコン等)
水産加工食品	魚介乾製品	魚介乾製品(カツオ節、魚介類干物、みりん干し、クサヤ、一夜干し等)
	くん製品	くん製品(イカくん、タコくん等)
	魚介類塩蔵品	塩辛(うるか、めふん、酒盗、このわた、カニ子等)
		その他の魚介類塩蔵品(塩鮭、新巻鮭等)
	魚肉ねり製品	かまぼこ
		魚肉ハム・ソーセージ
		揚げ製品(さつま揚げ、ボール、ごぼう巻き等)
	海藻類	その他の魚肉ねり製品(ちくわ、はんぺん、つみれ、すじ、だてまき等)
		海藻類(塩蔵わかめ、生わかめ、乾燥昆布等、うみぶどう、生のり等)
	魚卵類	海藻類加工品(寒天、味のり、板のり、とろてん等)
その他の魚介類加工品	魚卵類(かずのこ、イクラ、たらこ等)	
	魚介類水煮及びボイル(ボイルエビ、ボイルカニ、ボイルイカ、鮭・さば等水煮缶詰等)	
	魚介類油煮(まぐろオイル缶、オイルサーディン等)	
	魚介類漬物(味噌漬、麹漬、粟漬、酢漬(漬込み時間の短い塗り物含む。))等)	
	その他の魚介類加工品(ねりうに、なまり節、あんキモ、カニみそ、魚肉たん白、ウナギの骨等)	
畜産食品	食肉	牛肉(内臓を含む。)(味付生肉、味噌漬等漬物、生食用食肉等)
		豚肉(内臓を含む。)(味付生肉、味噌漬等漬物、トンカツ材料等)
		馬肉(内臓を含む。)(馬刺し等)
		鶏肉(内臓を含む。)
		その他の食鳥肉(アヒル肉、うずら肉、キジ肉、すずめ肉、ハト肉、七面鳥肉、ホロホロ鳥肉等)
		その他の食肉(羊肉、山羊肉、熊肉、猪肉、鹿肉、トナカイ肉、カンガルー肉、ウサギ肉、ゲーム・ミート、ハンバーグパテ、生ソーセージ等)
		鶏卵
	食鳥卵	その他の食鳥卵(アヒルの卵、うずらの卵等)

大	中	小
畜産加工品	食肉製品	ハム
		ソーセージ
		ベーコン
		その他の食肉製品(コーンビーフ、ローストビーフ、ジャーキー、焼豚等)
	その他の鳥獣肉類の調製品	その他の鳥獣肉類の調製品(塩蔵獣腸、塩蔵牛肉、煮沸牛肉、肉エキス、ゼラチン、コラーゲンパウダー等)
	乳	牛乳類(牛乳、加工乳等)
		その他の乳類(山羊乳等)
	アイスクリーム類	アイスクリーム類(ソフトクリーム、その他のアイスクリーム(菓子との複合物を含む。))等)
	乳製品	ナチュラルチーズ
		プロセスチーズ
発酵乳		
その他の乳製品(乳主原を含む。)(クリーム、バター、練乳類、粉乳類、乳酸菌飲料、乳飲料等)		
食鳥卵調製品	鶏卵加工品(ゆで卵、温泉卵等)	
その他の動物性食品	その他の食鳥卵の加工品(ピータン、うずらのゆで卵等)	
その他の動物性食品	その他の動物性食品(はちみつ、ローヤルゼリー、エスカルゴ、カエル、スッポン、ウミガメ、ヘビ、つばめの巣、血球の調製品、昆虫類及びその調製品、鳥獣の骨、はちのす及びその調製品等)	
農産食品	生鮮野菜	生鮮野菜(絹さや、枝豆、そら豆、スナップえんどう等未成熟で主にさや付きの豆類を含む等)
	生鮮果実	生鮮果実(スイカ、メロン、イチゴ等)
	穀類	米
		その他の穀類(小麦、粟等)
	豆類	豆類(大豆、小豆、花豆、その他の成熟後に収穫し乾燥した豆類等)
	きのこ類	きのこ類(椎茸、えのき茸、舞茸等)
その他の農産物	その他の農産物(食用花等)	

(資料1-2) 食品の分類表2 (東京都の分類表を使用)

大	中	小
農産加工食品	穀類加工品	米飯、おかゆ類（レトルト、フリーズドライ等の米飯、おかゆ等（調味加工品を含む。））
		もち
		粉類（小麦粉、強力粉、調理用ミックス粉（小麦粉等を主体とするもの）、もち粉等）
		その他の穀類加工品（生きたんぼ、そばがき、パン粉、オートミール、シリアル等）
	豆類の加工品	豆腐（豆腐、充填豆腐等）
		豆腐加工品（あぶらあげ、がんもどき、厚揚げ等）
		納豆
		粉類（きな粉、うぐいす粉等）
		あん類
	その他の豆類の加工品（大豆水煮等）	
	ナッツ及びナッツの加工品	ナッツ及びびナッツの加工品（アーモンド、くり、クルミ、落花生、その他（バターピーナッツ、その他のピーナッツ製品、生カシューナッツ、生ピスタチオナッツ、生ヘーゼルナッツ（ハシバミ）、生マカデミアナッツ）等）
	種実類及び種実類加工品	種実類及び種実類加工品（ごま、かぼちゃの種、ひまわりの種等）
	コーヒー豆・ココア・茶	コーヒー豆
		ココア（ココア製品（カカオニブ、カカオマス、カカオバター、カカオケーキ、ココア粉、ココア調製品）等）
		茶葉（緑茶、紅茶、プーアル茶、烏龍茶、麦茶、ハト麦茶、ルイボスティ等）
	でん粉	でん粉及びでん粉加工品（でん粉（かたくり粉、くずでん粉、タピオカでん粉、サゴでん粉、馬鈴薯でん粉、カンショでん粉、コーンスターチ）、でん粉加工品（くずきり、はるさめ）等）
	野菜加工品	乾燥野菜（干し椎茸、きくらげ、切り干し大根等）
		塩蔵野菜（塩漬メンマ等）
		野菜の水煮（アスパラガス水煮、マッシュルーム水煮等）
		カット野菜（野菜ミックス、カットネギ、生のミックスベジタブル等）
その他の野菜加工品（マッシュポテトの素等）		
果実加工品	カットフルーツ	
	ジャム・マーマレード	
	乾燥果実（干し柿、干しあんず、干しぶどう、干しすもも等）	
	その他の果実加工品（砂糖煮した果実及び果皮（キャンデッドチェリー）、フルーツのシロップ漬等）	
きのこ加工品	きのこ加工品（乾燥きのこ、きのこ水煮等）	

大	中	小
農産加工食品	つけ物	浅漬
		その他
	めん類	乾麺
		即席麺（インスタントラーメン類等）
		生麺
		ゆで麺・むし麺
	その他の農産物の加工品	皮類（ギョウザの皮、シュウマイの皮、ワンタンの皮、春巻の皮等）
		こんにやく
		フラワーペースト（ピーナッツペースト、チョコレートペースト等）
	その他の農産物の加工品（大豆たん白、その他の植物たん白等）	
菓子類	パン類	菓子パン（ラスク、カレーパン、ソーセージパン類等）
		その他のパン（食パン、ロールパン等）
	生菓子	洋生菓子
		和生菓子
	その他の菓子類	その他の生菓子
		焼菓子
		油菓子
		キャンディー・チューインガム
		チョコレート
	中華まんじゅう等（肉まん、あんまん、ピザまん等）	
その他の菓子類		
氷菓	氷菓	
製菓材料	菓子類の装飾に使用するもの（アラザン、アンゼリカ、フォンダント、コーンカップ、メレンゲ（サンタ型）等）	
飲料	清涼飲料水	炭酸飲料（炭酸水、サイダー等）
		ミネラルウォーター類
		果汁飲料
		粉末清涼飲料
	その他の清涼飲料（低酸性飲料（コーヒー、ウーロン茶等）、豆乳等）	
	水	水（原水、原料水等）
	氷雪	氷雪
酒精飲料	酒精飲料	
その他の飲料	その他の飲料	
油脂	動物性油脂	動物性油脂
	植物性油脂	植物性油脂
	その他の油脂	その他の油脂（マーガリン等）

(資料1-3) 食品の分類表3 (東京都の分類表を使用)

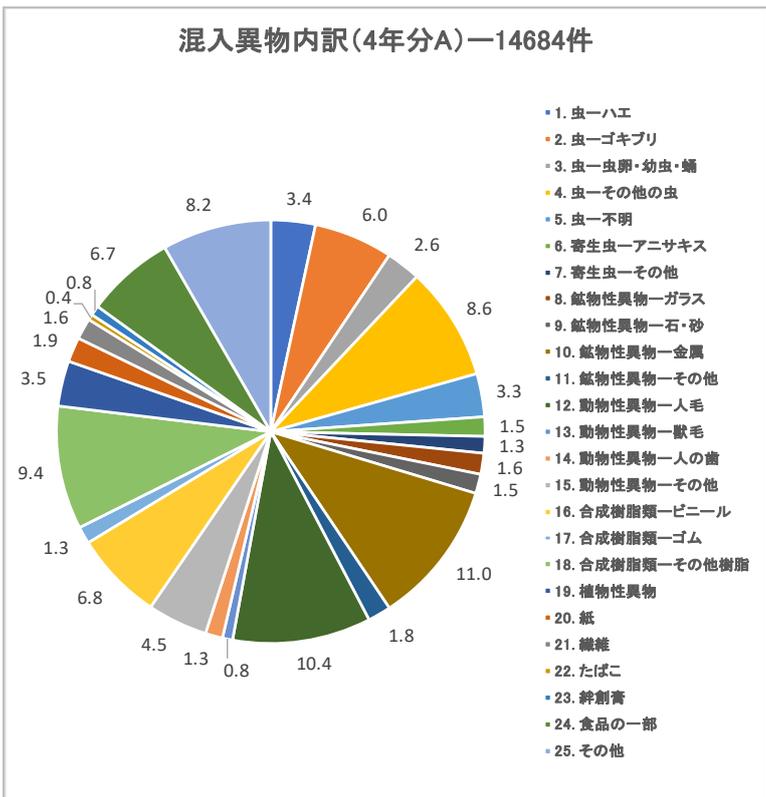
大	中	小
調理 済 み 食 品	煮物・鍋物	煮物・鍋物 (佃煮、うま煮、おでん、きんとん、田作り、煮込みハンバーグ、鍋物等)
	焼物	焼物 (串焼、塩焼、照焼、蒲焼、玉子焼、焼肉、タコ焼、お好み焼、キッシュ、グラタン、ピザ等)
	揚げ物	揚げ物 (天プラ、コロッケ、フライ等)
	酢の物	酢の物 (マリネ、酢レンコン等)
	和え物	和え物 (ゴマ和え等)
	蒸し物	蒸し物 (卵豆腐、茶わんむし、シュウマイ等)
	炒め物	炒め物 (野菜炒め、八宝菜、きんぴらごぼう等)
	サラダ	サラダ (ポテトサラダ、はるさめサラダ、野菜サラダ等)
	めん物	めん物 (うどん、日本そば、中華そば、スパゲティ等)
	飯物	飯物 (丼物、カレーライス、おにぎり等)
	汁物	汁物 (みそ汁、吸い物、コンソメスープ、コーンポタージュ、シチュー等)
	すし	すし (握り寿司、ちらし寿司、巻き寿司、いなり寿司等)
	その他	その他 (上記に該当しない単一品目等)
	複合調理食品	複合調理食品 (給食、会食、定食等全体)
弁当	弁当 (弁当全体)	
調理パン類	調理パン類	
半 製 品	そう菜 半製品	そう菜半製品 (カツ、コロッケ、ハンバーグ、カキフライ、ピザ半製品等)
そ 食 の 品 他 の	調味料	調味料 (みそ、しょうゆ、その他の調味料、香辛料、糖類等)
	その他の食品	その他の食品 (ふりかけ、微生物由来の製品 (粉末乳酸菌、イースト等)、食品の不可食部等)
食 品 添 加 物	食品添加物	食品添加物

(資料1-4) 製造工程の分類

	製造工程
1	原材料
2	選別
3	洗浄工程
4	カット工程
5	混ぜる工程
6	加熱工程
7	盛り付け
8	包装工程
9	梱包工程
10	その他

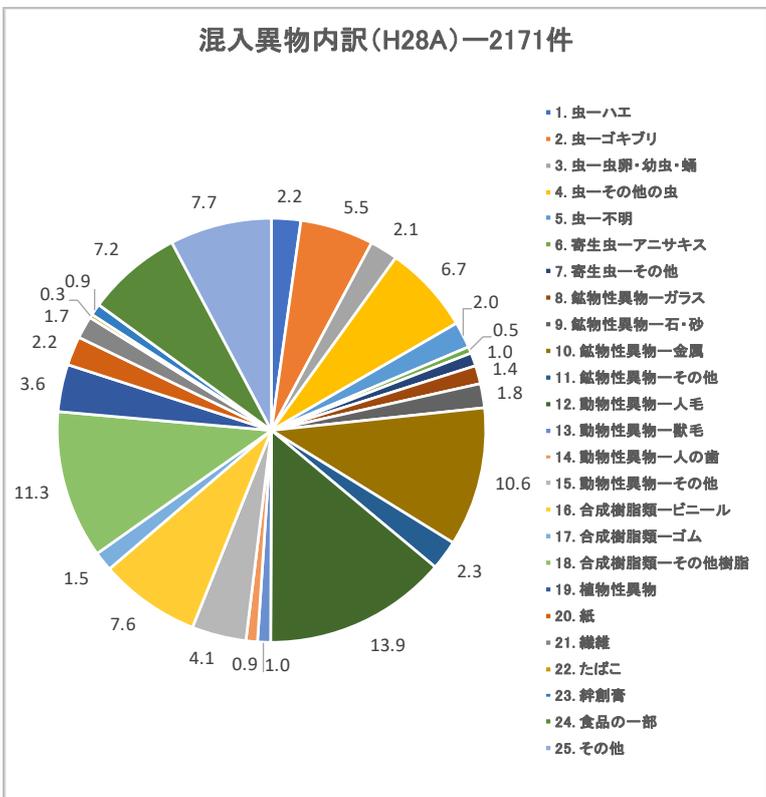
図表 1 A : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H28~R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—4年分A(14684件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	495	3.4
2. 虫—ゴキブリ	875	6.0
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	383	2.6
4. 虫—その他の虫	1270	8.6
5. 虫—不明	484	3.3
6. 寄生虫—アニサキス	216	1.5
7. 寄生虫—その他	187	1.3
8. 鉱物性異物—ガラス	235	1.6
9. 鉱物性異物—石・砂	216	1.5
10. 鉱物性異物—金属	1609	11.0
11. 鉱物性異物—その他	258	1.8
12. 動物性異物—人毛	1532	10.4
13. 動物性異物—獣毛	114	0.8
14. 動物性異物—人の歯	192	1.3
15. 動物性異物—その他	666	4.5
16. 合成樹脂類—ビニール	992	6.8
17. 合成樹脂類—ゴム	192	1.3
18. 合成樹脂類—その他樹脂	1381	9.4
19. 植物性異物	509	3.5
20. 紙	275	1.9
21. 繊維	234	1.6
22. たばこ	64	0.4
23. 絆創膏	111	0.8
24. 食品の一部	986	6.7
25. その他	1208	8.2
合計	14684	100.0



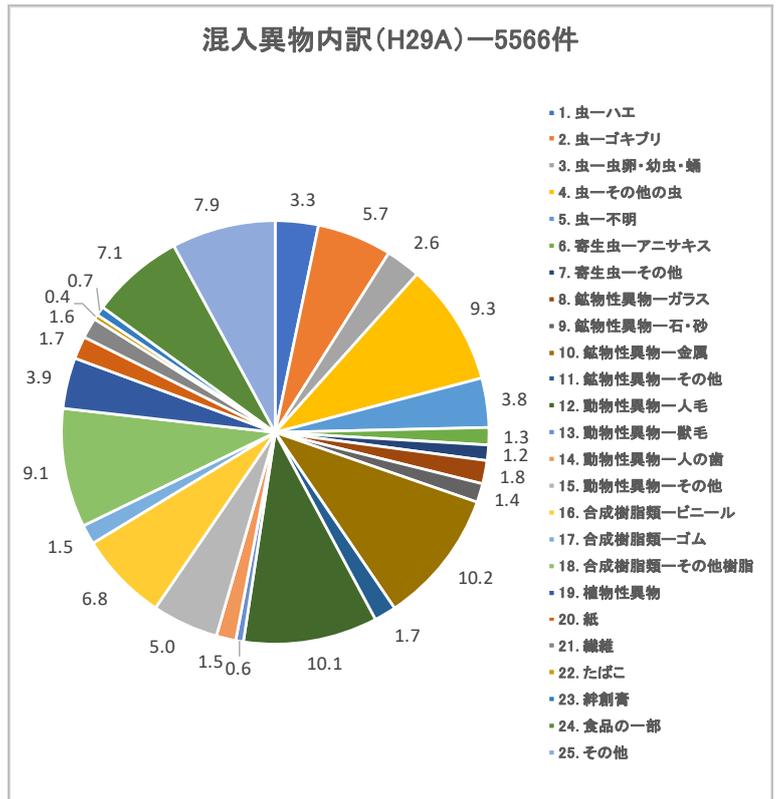
図表 1 B : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H28 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H28A(2171件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	48	2.2
2. 虫—ゴキブリ	120	5.5
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	46	2.1
4. 虫—その他の虫	146	6.7
5. 虫—不明	43	2.0
6. 寄生虫—アニサキス	11	0.5
7. 寄生虫—その他	22	1.0
8. 鉱物性異物—ガラス	30	1.4
9. 鉱物性異物—石・砂	40	1.8
10. 鉱物性異物—金属	230	10.6
11. 鉱物性異物—その他	49	2.3
12. 動物性異物—人毛	302	13.9
13. 動物性異物—獣毛	21	1.0
14. 動物性異物—人の歯	19	0.9
15. 動物性異物—その他	89	4.1
16. 合成樹脂類—ビニール	166	7.6
17. 合成樹脂類—ゴム	32	1.5
18. 合成樹脂類—その他樹脂	245	11.3
19. 植物性異物	78	3.6
20. 紙	48	2.2
21. 繊維	37	1.7
22. たばこ	6	0.3
23. 絆創膏	19	0.9
24. 食品の一部	157	7.2
25. その他	167	7.7
合計	2171	100.0



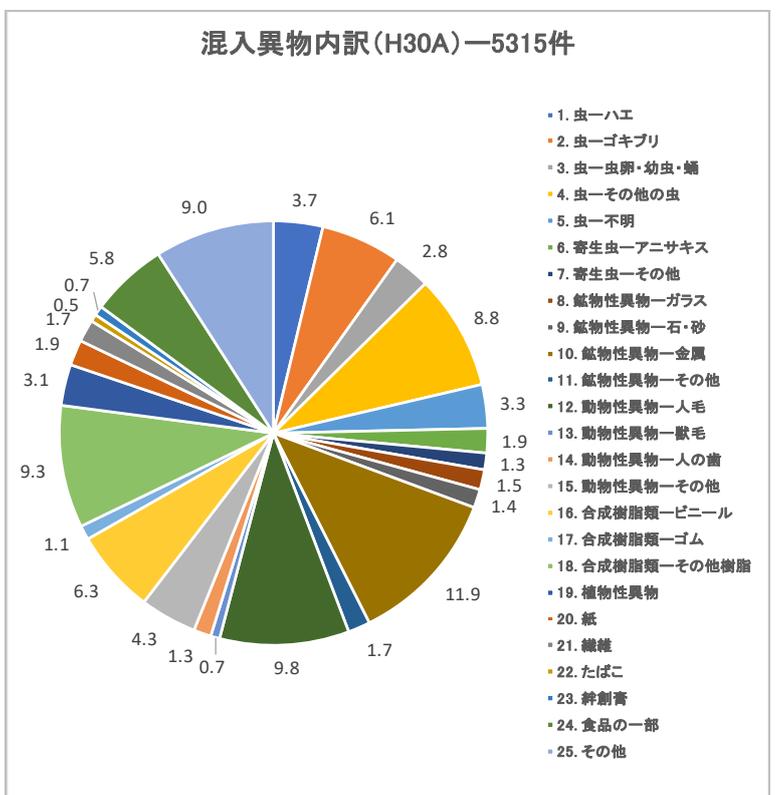
図表 1 C : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H29 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H29A(5566件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	181	3.3
2. 虫—ゴキブリ	315	5.7
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	147	2.6
4. 虫—その他の虫	518	9.3
5. 虫—不明	210	3.8
6. 寄生虫—アニサキス	73	1.3
7. 寄生虫—その他	66	1.2
8. 鉱物性異物—ガラス	99	1.8
9. 鉱物性異物—石・砂	80	1.4
10. 鉱物性異物—金属	569	10.2
11. 鉱物性異物—その他	93	1.7
12. 動物性異物—人毛	564	10.1
13. 動物性異物—獣毛	33	0.6
14. 動物性異物—人の歯	82	1.5
15. 動物性異物—その他	279	5.0
16. 合成樹脂類—ビニール	378	6.8
17. 合成樹脂類—ゴム	83	1.5
18. 合成樹脂類—その他樹脂	506	9.1
19. 植物性異物	216	3.9
20. 紙	96	1.7
21. 繊維	87	1.6
22. たばこ	21	0.4
23. 絆創膏	39	0.7
24. 食品の一部	394	7.1
25. その他	437	7.9
合計	5566	100.0



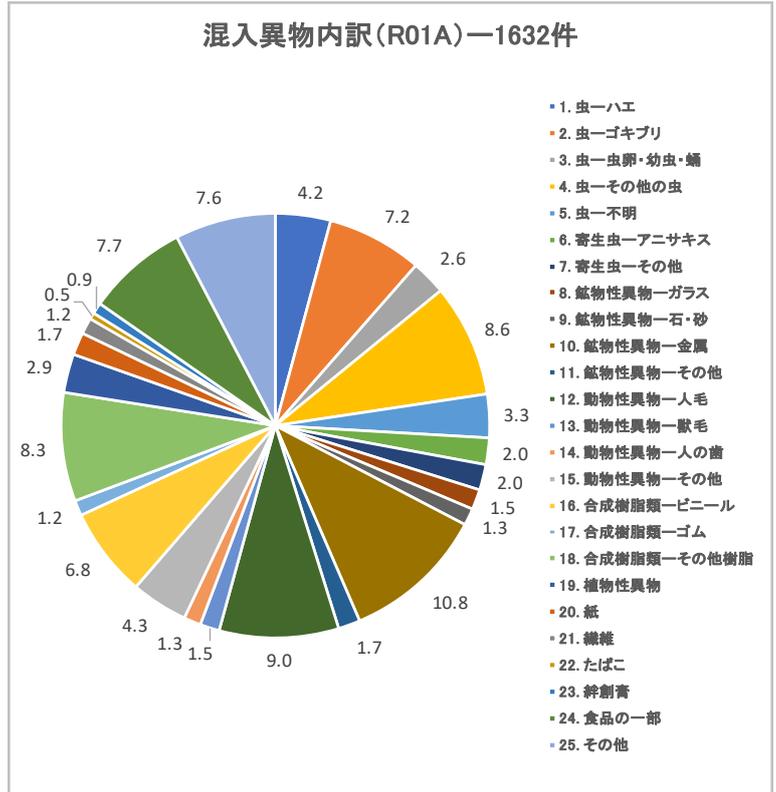
図表 1 D : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H30 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H30A(5315件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	198	3.7
2. 虫—ゴキブリ	322	6.1
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	147	2.8
4. 虫—その他の虫	466	8.8
5. 虫—不明	177	3.3
6. 寄生虫—アニサキス	99	1.9
7. 寄生虫—その他	67	1.3
8. 鉱物性異物—ガラス	81	1.5
9. 鉱物性異物—石・砂	75	1.4
10. 鉱物性異物—金属	633	11.9
11. 鉱物性異物—その他	89	1.7
12. 動物性異物—人毛	519	9.8
13. 動物性異物—獣毛	36	0.7
14. 動物性異物—人の歯	70	1.3
15. 動物性異物—その他	228	4.3
16. 合成樹脂類—ビニール	337	6.3
17. 合成樹脂類—ゴム	58	1.1
18. 合成樹脂類—その他樹脂	495	9.3
19. 植物性異物	167	3.1
20. 紙	103	1.9
21. 繊維	90	1.7
22. たばこ	29	0.5
23. 絆創膏	39	0.7
24. 食品の一部	310	5.8
25. その他	480	9.0
合計	5315	100.0



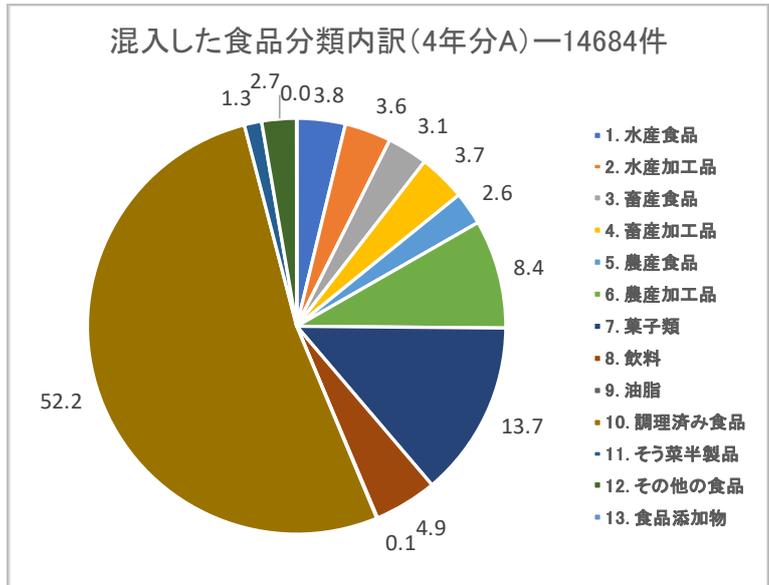
図表 1 E : 調査票 1 総数「全体 (A)」R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—R01A(1632件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	68	4.2
2. 虫—ゴキブリ	118	7.2
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	43	2.6
4. 虫—その他の虫	140	8.6
5. 虫—不明	54	3.3
6. 寄生虫—アニサキス	33	2.0
7. 寄生虫—その他	32	2.0
8. 鉱物性異物—ガラス	25	1.5
9. 鉱物性異物—石・砂	21	1.3
10. 鉱物性異物—金属	177	10.8
11. 鉱物性異物—その他	27	1.7
12. 動物性異物—人毛	147	9.0
13. 動物性異物—獣毛	24	1.5
14. 動物性異物—人の歯	21	1.3
15. 動物性異物—その他	70	4.3
16. 合成樹脂類—ビニール	111	6.8
17. 合成樹脂類—ゴム	19	1.2
18. 合成樹脂類—その他樹脂	135	8.3
19. 植物性異物	48	2.9
20. 紙	28	1.7
21. 繊維	20	1.2
22. たばこ	8	0.5
23. 絆創膏	14	0.9
24. 食品の一部	125	7.7
25. その他	124	7.6
合計	1632	100.0



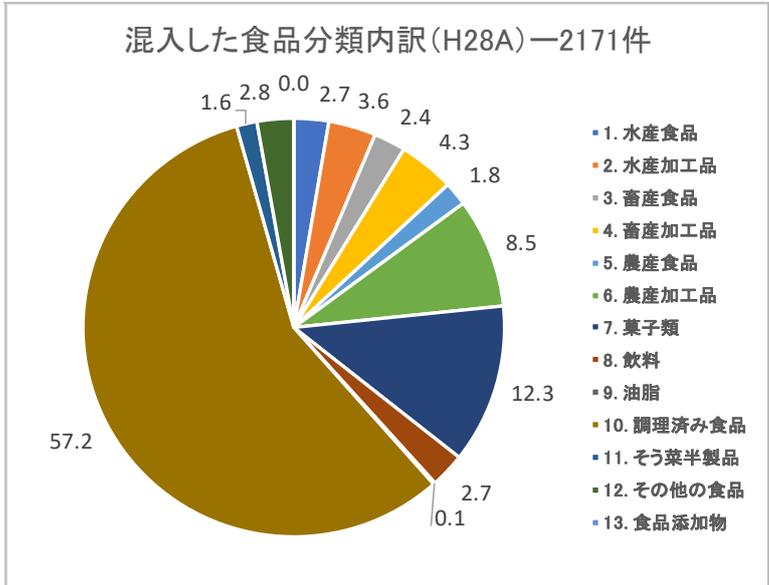
図表 2 A : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H28~R01 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—4年分A(14684件)	割合(%)
1. 水産食品	551	3.8
2. 水産加工品	528	3.6
3. 畜産食品	458	3.1
4. 畜産加工品	537	3.7
5. 農産食品	377	2.6
6. 農産加工品	1240	8.4
7. 菓子類	2008	13.7
8. 飲料	715	4.9
9. 油脂	10	0.1
10. 調理済み食品	7668	52.2
11. そう菜半製品	197	1.3
12. その他の食品	393	2.7
13. 食品添加物	2	0.0
合計	14684	100.0



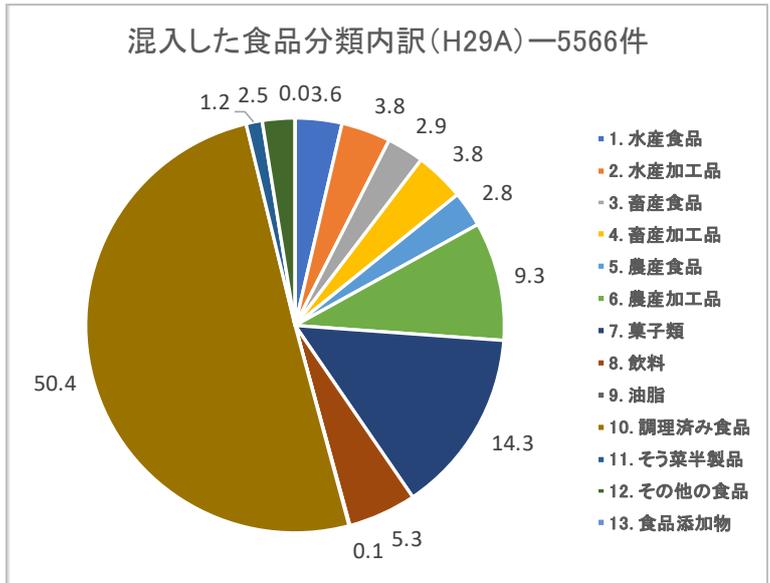
図表 2 B : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H28 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H28A(2171件)	割合(%)
1. 水産食品	58	2.7
2. 水産加工品	79	3.6
3. 畜産食品	53	2.4
4. 畜産加工品	93	4.3
5. 農産食品	40	1.8
6. 農産加工品	184	8.5
7. 菓子類	267	12.3
8. 飲料	58	2.7
9. 油脂	3	0.1
10. 調理済み食品	1241	57.2
11. そう菜半製品	34	1.6
12. その他の食品	61	2.8
13. 食品添加物	0	0.0
合計	2171	100.0



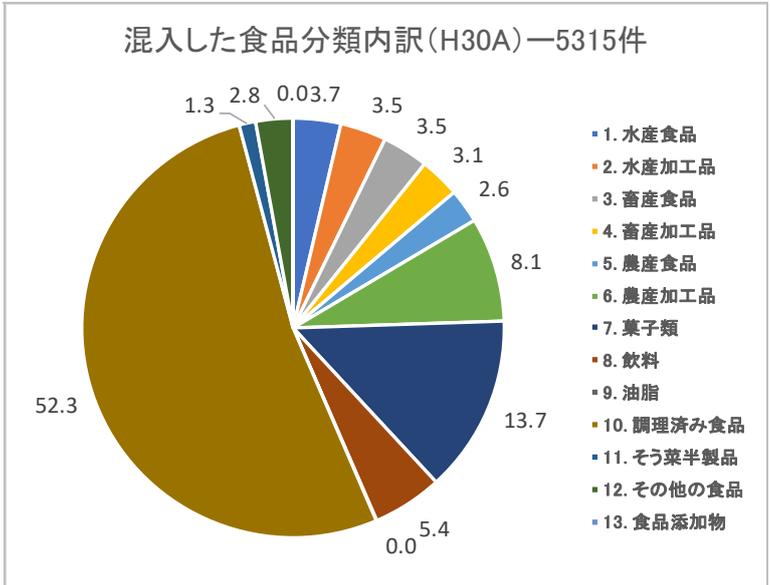
図表 2 C : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H29 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H29A(5566件)	割合(%)
1. 水産食品	201	3.6
2. 水産加工品	212	3.8
3. 畜産食品	160	2.9
4. 畜産加工品	214	3.8
5. 農産食品	154	2.8
6. 農産加工品	515	9.3
7. 菓子類	798	14.3
8. 飲料	294	5.3
9. 油脂	3	0.1
10. 調理済み食品	2806	50.4
11. そう菜半製品	69	1.2
12. その他の食品	140	2.5
13. 食品添加物	0	0.0
合計	5566	100.0



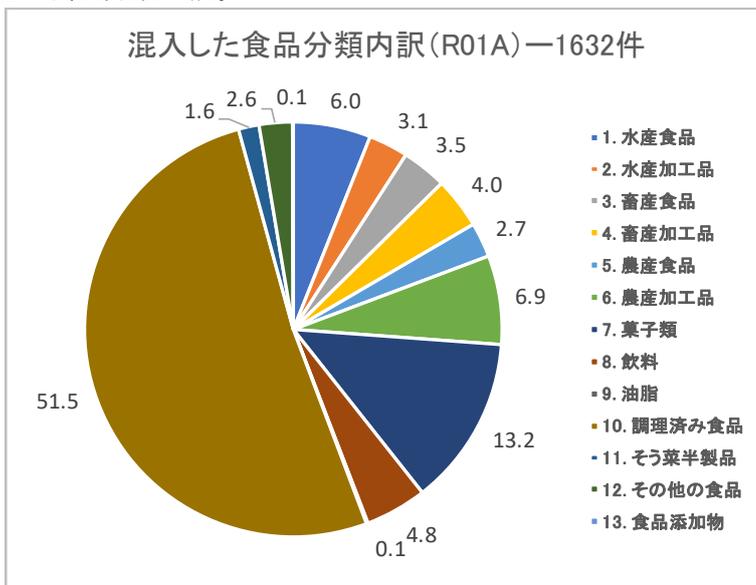
図表 2 D : 調査票 1 総数「全体 (A)」 H30 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H30A(5315件)	割合(%)
1. 水産食品	194	3.7
2. 水産加工品	187	3.5
3. 畜産食品	188	3.5
4. 畜産加工品	165	3.1
5. 農産食品	139	2.6
6. 農産加工品	428	8.1
7. 菓子類	727	13.7
8. 飲料	285	5.4
9. 油脂	2	0.0
10. 調理済み食品	2781	52.3
11. そう菜半製品	68	1.3
12. その他の食品	150	2.8
13. 食品添加物	1	0.0
合計	5315	100.0



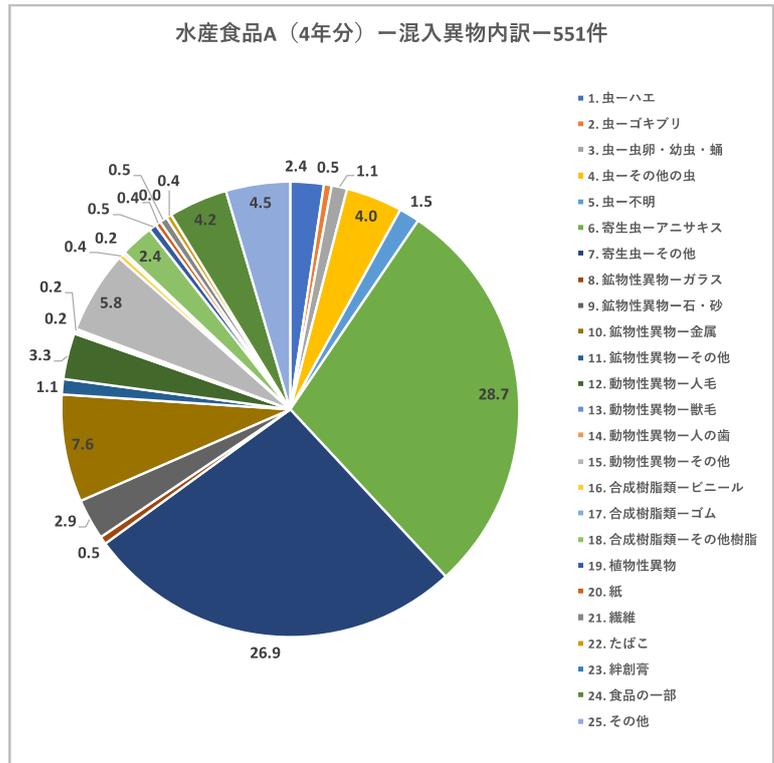
図表 2 E : 調査票 1 総数「全体 (A)」R01 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—R01A(1632件)	割合(%)
1. 水産食品	98	6.0
2. 水産加工品	50	3.1
3. 畜産食品	57	3.5
4. 畜産加工品	65	4.0
5. 農産食品	44	2.7
6. 農産加工品	113	6.9
7. 菓子類	216	13.2
8. 飲料	78	4.8
9. 油脂	2	0.1
10. 調理済み食品	840	51.5
11. そう菜半製品	26	1.6
12. その他の食品	42	2.6
13. 食品添加物	1	0.1
合計	1632	100.0



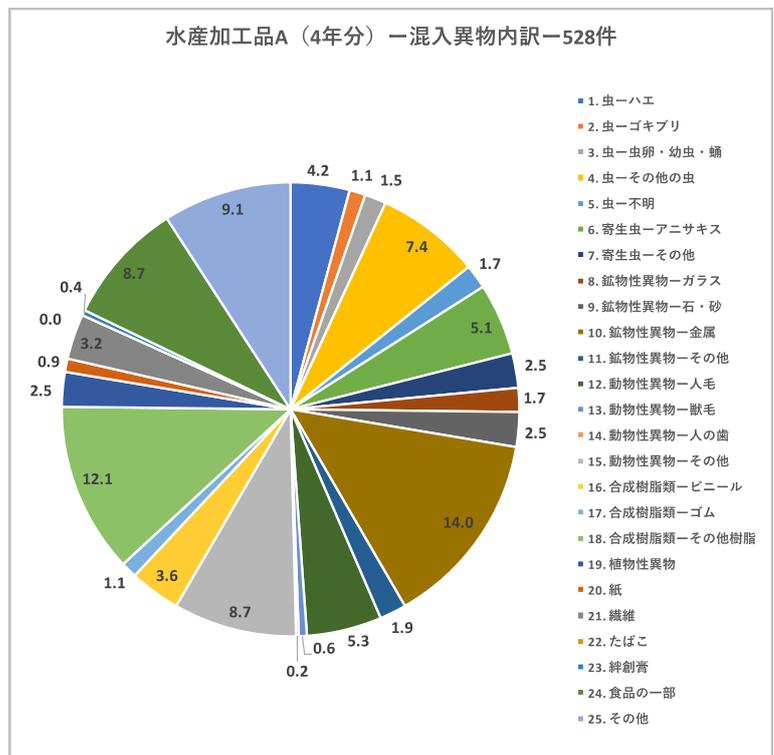
図表 3 A : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「水産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 551 件)

異物の種類	件数-水産食品A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	13	2.4
2. 虫-ゴキブリ	3	0.5
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	6	1.1
4. 虫-その他の虫	22	4.0
5. 虫-不明	8	1.5
6. 寄生虫-アニサキス	158	28.7
7. 寄生虫-その他	148	26.9
8. 鉱物性異物-ガラス	3	0.5
9. 鉱物性異物-石・砂	16	2.9
10. 鉱物性異物-金属	42	7.6
11. 鉱物性異物-その他	6	1.1
12. 動物性異物-人毛	18	3.3
13. 動物性異物-獣毛	1	0.2
14. 動物性異物-人の歯	1	0.2
15. 動物性異物-その他	32	5.8
16. 合成樹脂類-ビニール	2	0.4
17. 合成樹脂類-ゴム	1	0.2
18. 合成樹脂類-その他樹脂	13	2.4
19. 植物性異物	3	0.5
20. 紙	2	0.4
21. 繊維	3	0.5
22. たばこ	2	0.4
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	23	4.2
25. その他	25	4.5
合計	551	100.0



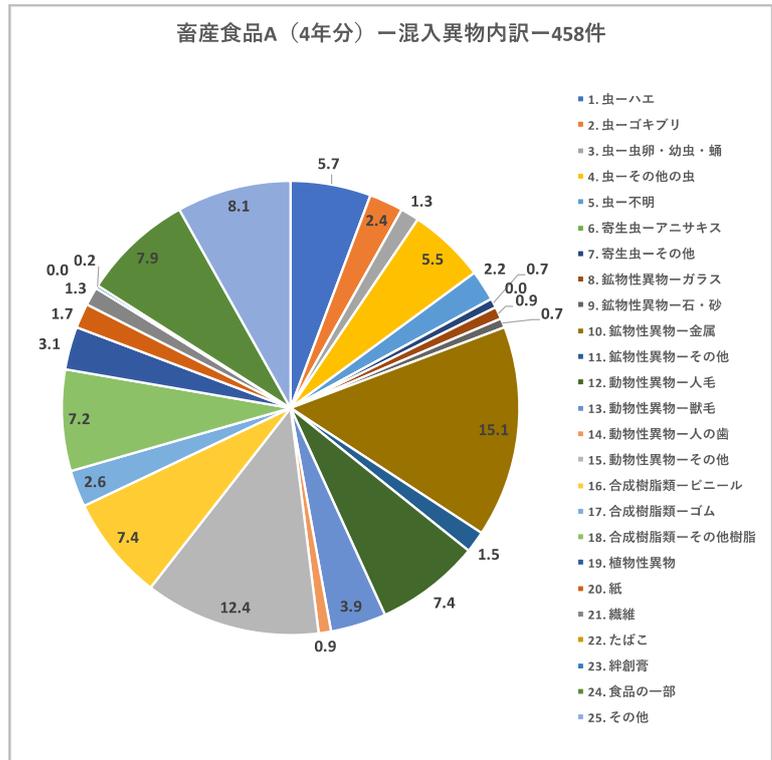
図表 3 B : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「水産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 528 件)

異物の種類	件数-水産加工品A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	22	4.2
2. 虫-ゴキブリ	6	1.1
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	8	1.5
4. 虫-その他の虫	39	7.4
5. 虫-不明	9	1.7
6. 寄生虫-アニサキス	27	5.1
7. 寄生虫-その他	13	2.5
8. 鉱物性異物-ガラス	9	1.7
9. 鉱物性異物-石・砂	13	2.5
10. 鉱物性異物-金属	74	14.0
11. 鉱物性異物-その他	10	1.9
12. 動物性異物-人毛	28	5.3
13. 動物性異物-獣毛	3	0.6
14. 動物性異物-人の歯	1	0.2
15. 動物性異物-その他	46	8.7
16. 合成樹脂類-ビニール	19	3.6
17. 合成樹脂類-ゴム	6	1.1
18. 合成樹脂類-その他樹脂	64	12.1
19. 植物性異物	13	2.5
20. 紙	5	0.9
21. 繊維	17	3.2
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	2	0.4
24. 食品の一部	46	8.7
25. その他	48	9.1
合計	528	100.0



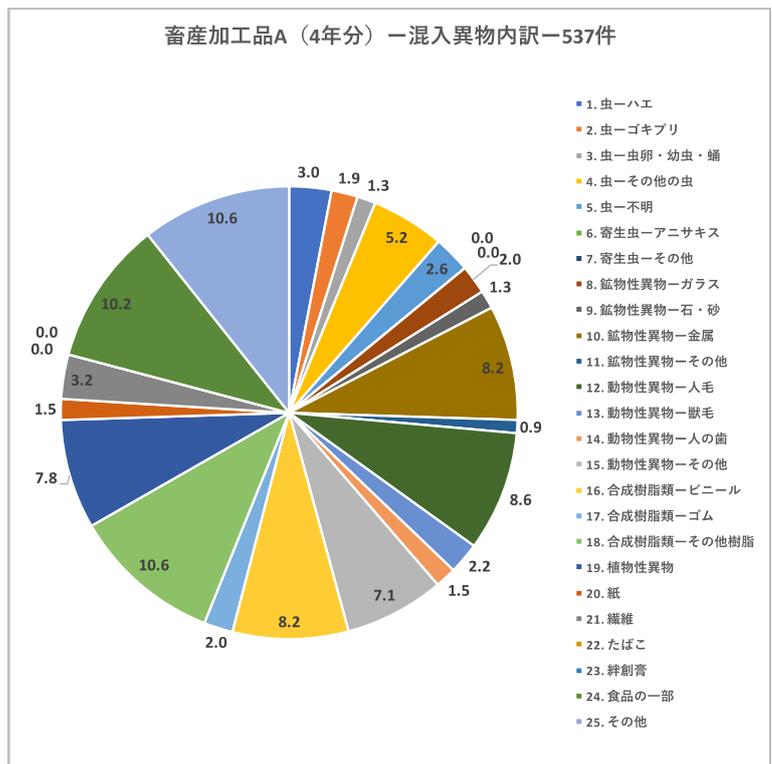
図表 3 C : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「畜産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 458 件)

異物の種類	件数-畜産食品A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	26	5.7
2. 虫-ゴキブリ	11	2.4
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	6	1.3
4. 虫-その他の虫	25	5.5
5. 虫-不明	10	2.2
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	3	0.7
8. 鉱物性異物-ガラス	4	0.9
9. 鉱物性異物-石・砂	3	0.7
10. 鉱物性異物-金属	69	15.1
11. 鉱物性異物-その他	7	1.5
12. 動物性異物-人毛	34	7.4
13. 動物性異物-獣毛	18	3.9
14. 動物性異物-人の歯	4	0.9
15. 動物性異物-その他	57	12.4
16. 合成樹脂類-ビニール	34	7.4
17. 合成樹脂類-ゴム	12	2.6
18. 合成樹脂類-その他樹脂	33	7.2
19. 植物性異物	14	3.1
20. 紙	8	1.7
21. 繊維	6	1.3
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	0.2
24. 食品の一部	36	7.9
25. その他	37	8.1
合計	458	100.0



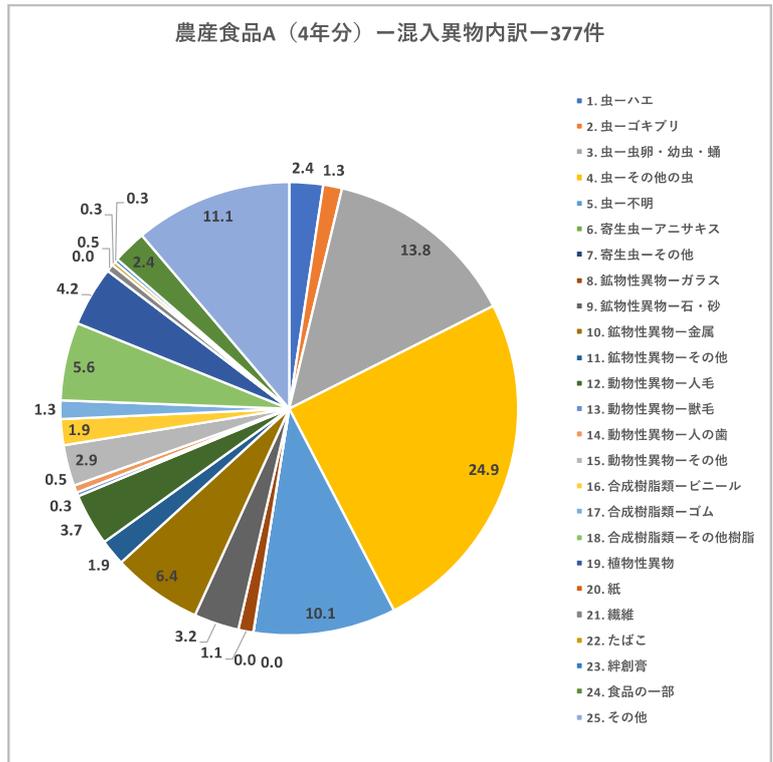
図表 3 D : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「畜産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 537 件)

異物の種類	件数-畜産加工品A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	16	3.0
2. 虫-ゴキブリ	10	1.9
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	7	1.3
4. 虫-その他の虫	28	5.2
5. 虫-不明	14	2.6
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	11	2.0
9. 鉱物性異物-石・砂	7	1.3
10. 鉱物性異物-金属	44	8.2
11. 鉱物性異物-その他	5	0.9
12. 動物性異物-人毛	46	8.6
13. 動物性異物-獣毛	12	2.2
14. 動物性異物-人の歯	8	1.5
15. 動物性異物-その他	38	7.1
16. 合成樹脂類-ビニール	44	8.2
17. 合成樹脂類-ゴム	11	2.0
18. 合成樹脂類-その他樹脂	57	10.6
19. 植物性異物	42	7.8
20. 紙	8	1.5
21. 繊維	17	3.2
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	55	10.2
25. その他	57	10.6
合計	537	100.0



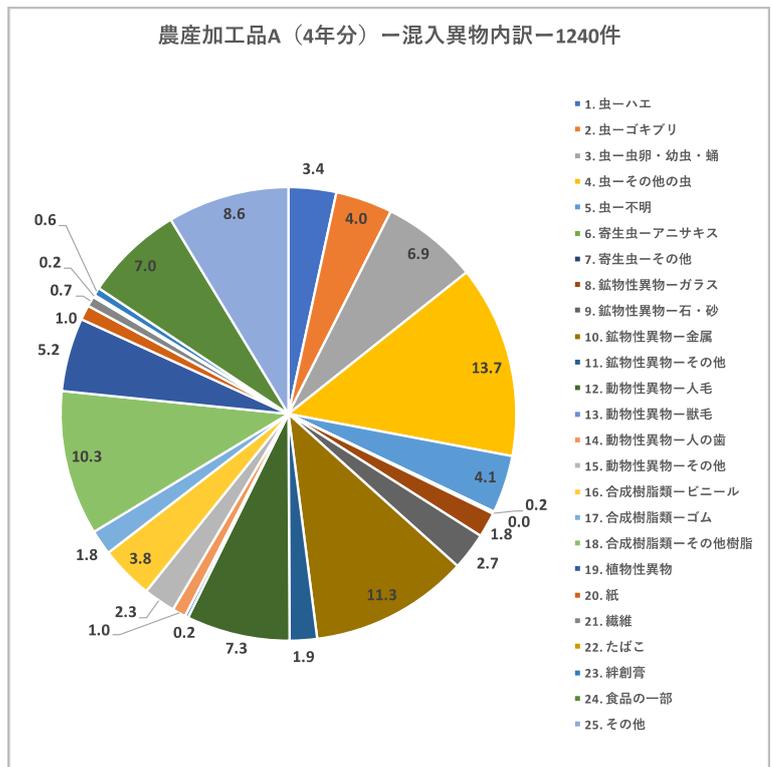
図表 3 E : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「農産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 377 件)

異物の種類	件数—農産食品A	割合 (%)
1. 虫—ハエ	9	2.4
2. 虫—ゴキブリ	5	1.3
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	52	13.8
4. 虫—その他の虫	94	24.9
5. 虫—不明	38	10.1
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	4	1.1
9. 鉱物性異物—石・砂	12	3.2
10. 鉱物性異物—金属	24	6.4
11. 鉱物性異物—その他	7	1.9
12. 動物性異物—人毛	14	3.7
13. 動物性異物—獣毛	1	0.3
14. 動物性異物—人の歯	2	0.5
15. 動物性異物—その他	11	2.9
16. 合成樹脂類—ビニール	7	1.9
17. 合成樹脂類—ゴム	5	1.3
18. 合成樹脂類—その他樹脂	21	5.6
19. 植物性異物	16	4.2
20. 紙	0	0.0
21. 繊維	2	0.5
22. たばこ	1	0.3
23. 絆創膏	1	0.3
24. 食品の一部	9	2.4
25. その他	42	11.1
合計	377	100.0



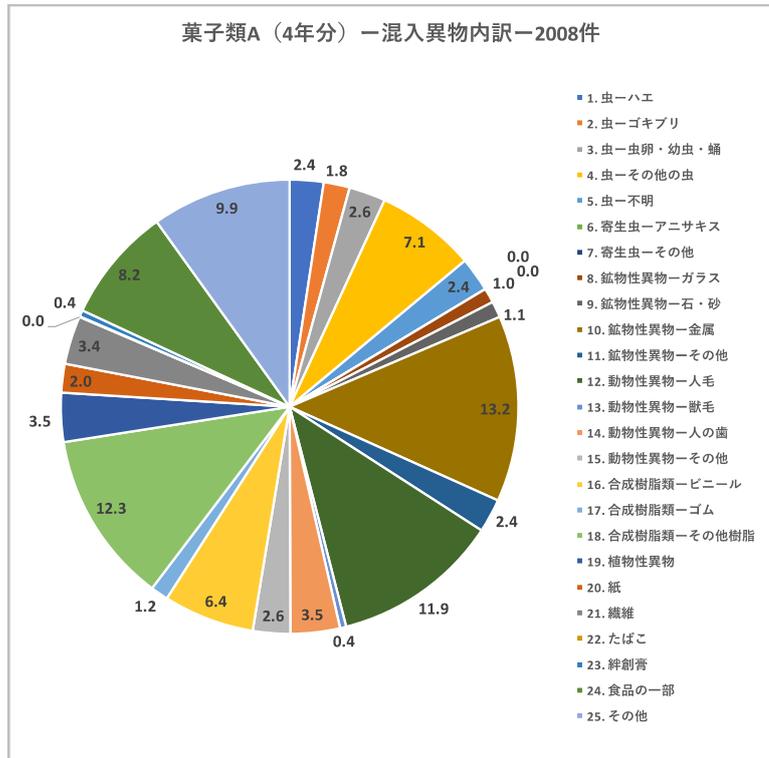
図表 3 F : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「農産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 1240 件)

異物の種類	件数—農産加工品A	割合 (%)
1. 虫—ハエ	42	3.4
2. 虫—ゴキブリ	50	4.0
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	85	6.9
4. 虫—その他の虫	170	13.7
5. 虫—不明	51	4.1
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	2	0.2
8. 鉱物性異物—ガラス	22	1.8
9. 鉱物性異物—石・砂	33	2.7
10. 鉱物性異物—金属	140	11.3
11. 鉱物性異物—その他	24	1.9
12. 動物性異物—人毛	91	7.3
13. 動物性異物—獣毛	3	0.2
14. 動物性異物—人の歯	12	1.0
15. 動物性異物—その他	28	2.3
16. 合成樹脂類—ビニール	47	3.8
17. 合成樹脂類—ゴム	22	1.8
18. 合成樹脂類—その他樹脂	128	10.3
19. 植物性異物	65	5.2
20. 紙	13	1.0
21. 繊維	9	0.7
22. たばこ	2	0.2
23. 絆創膏	7	0.6
24. 食品の一部	87	7.0
25. その他	107	8.6
合計	1240	100.0



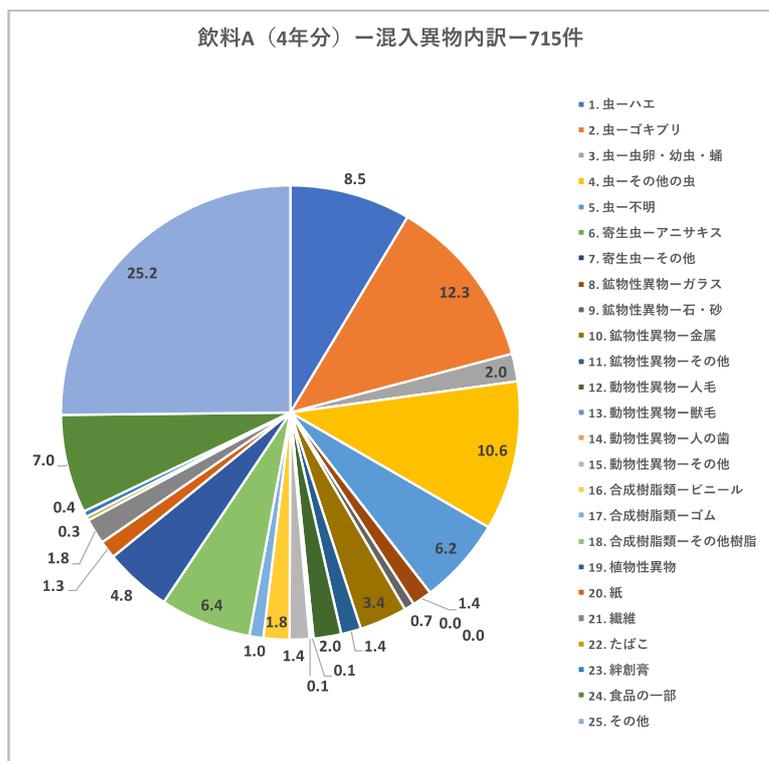
図表 3 G : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「菓子類」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 2008 件)

異物の種類	件数-菓子類A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	48	2.4
2. 虫-ゴキブリ	37	1.8
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	52	2.6
4. 虫-その他の虫	142	7.1
5. 虫-不明	49	2.4
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	21	1.0
9. 鉱物性異物-石・砂	23	1.1
10. 鉱物性異物-金属	266	13.2
11. 鉱物性異物-その他	48	2.4
12. 動物性異物-人毛	238	11.9
13. 動物性異物-獣毛	9	0.4
14. 動物性異物-人の歯	70	3.5
15. 動物性異物-その他	53	2.6
16. 合成樹脂類-ビニール	129	6.4
17. 合成樹脂類-ゴム	25	1.2
18. 合成樹脂類-その他樹脂	246	12.3
19. 植物性異物	70	3.5
20. 紙	41	2.0
21. 繊維	69	3.4
22. たばこ	1	0.0
23. 絆創膏	9	0.4
24. 食品の一部	164	8.2
25. その他	198	9.9
合計	2008	100.0



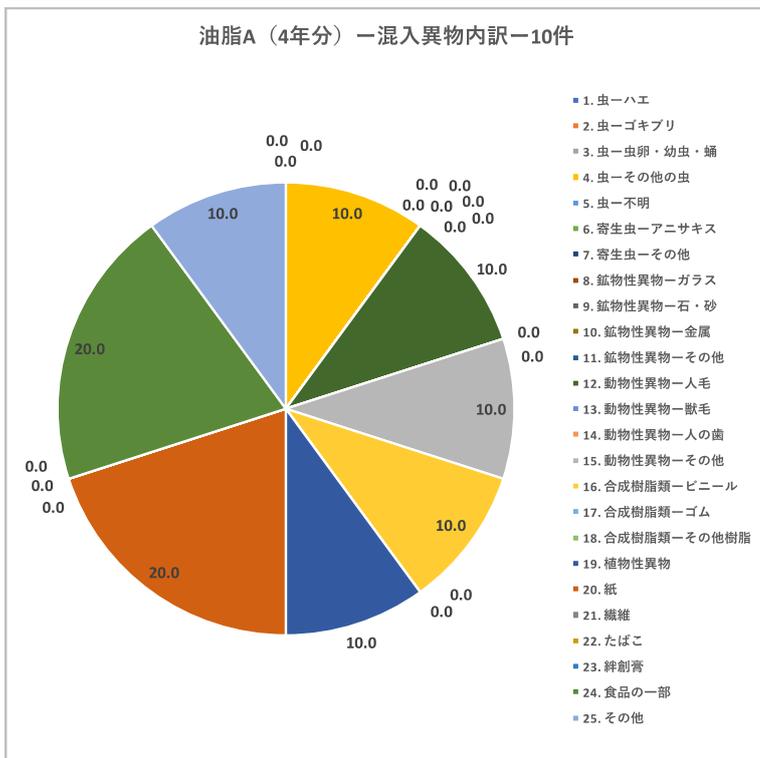
図表 3 H : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「飲料」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 715 件)

異物の種類	件数-飲料A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	61	8.5
2. 虫-ゴキブリ	88	12.3
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	14	2.0
4. 虫-その他の虫	76	10.6
5. 虫-不明	44	6.2
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	10	1.4
9. 鉱物性異物-石・砂	5	0.7
10. 鉱物性異物-金属	24	3.4
11. 鉱物性異物-その他	10	1.4
12. 動物性異物-人毛	14	2.0
13. 動物性異物-獣毛	1	0.1
14. 動物性異物-人の歯	1	0.1
15. 動物性異物-その他	10	1.4
16. 合成樹脂類-ビニール	13	1.8
17. 合成樹脂類-ゴム	7	1.0
18. 合成樹脂類-その他樹脂	46	6.4
19. 植物性異物	34	4.8
20. 紙	9	1.3
21. 繊維	13	1.8
22. たばこ	2	0.3
23. 絆創膏	3	0.4
24. 食品の一部	50	7.0
25. その他	180	25.2
合計	715	100.0



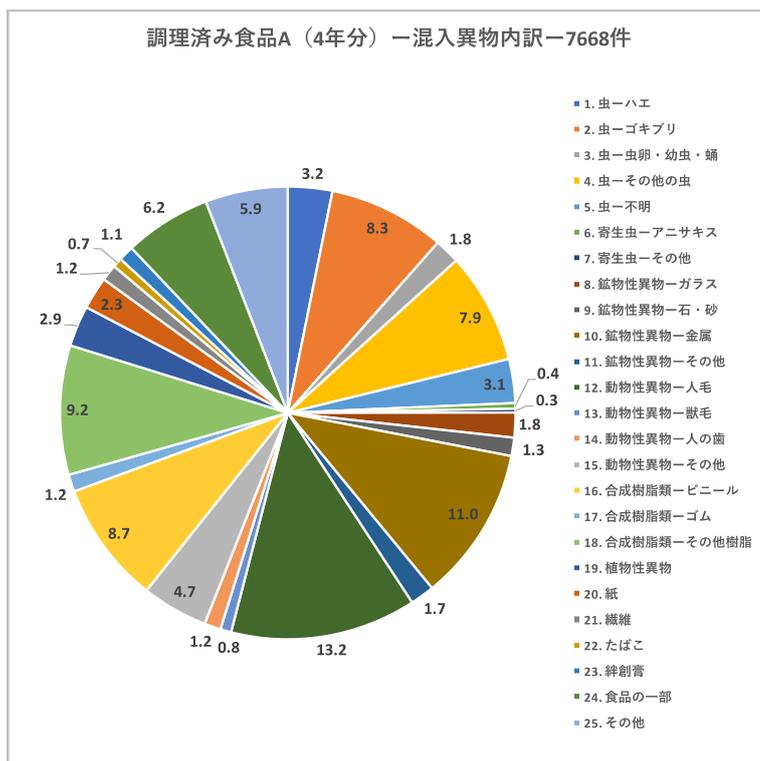
図表 3I：調査票 1 総数「全体 (A)」の「油脂」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 10 件)

異物の種類	件数-油脂A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	0	0.0
2. 虫-ゴキブリ	0	0.0
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	0	0.0
4. 虫-その他の虫	1	10.0
5. 虫-不明	0	0.0
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	0	0.0
9. 鉱物性異物-石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物-金属	0	0.0
11. 鉱物性異物-その他	0	0.0
12. 動物性異物-人毛	1	10.0
13. 動物性異物-獣毛	0	0.0
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	1	10.0
16. 合成樹脂類-ビニール	1	10.0
17. 合成樹脂類-ゴム	0	0.0
18. 合成樹脂類-その他樹脂	0	0.0
19. 植物性異物	1	10.0
20. 紙	2	20.0
21. 繊維	0	0.0
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	2	20.0
25. その他	1	10.0
合計	10	100.0



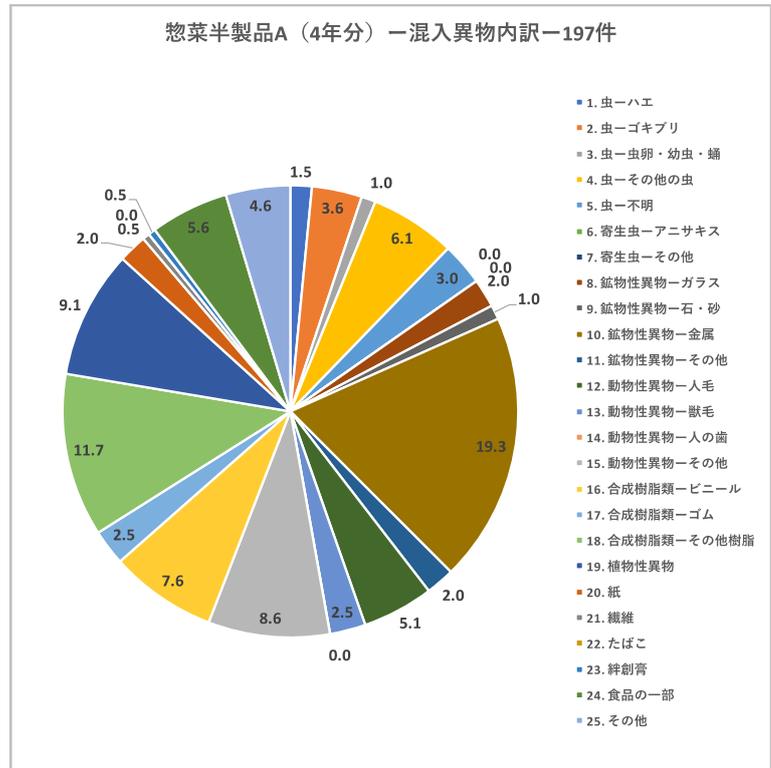
図表 3J：調査票 1 総数「全体 (A)」の「調理済み食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 7668 件)

異物の種類	件数-調理済み食品A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	242	3.2
2. 虫-ゴキブリ	636	8.3
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	138	1.8
4. 虫-その他の虫	607	7.9
5. 虫-不明	241	3.1
6. 寄生虫-アニサキス	31	0.4
7. 寄生虫-その他	20	0.3
8. 鉱物性異物-ガラス	137	1.8
9. 鉱物性異物-石・砂	100	1.3
10. 鉱物性異物-金属	845	11.0
11. 鉱物性異物-その他	132	1.7
12. 動物性異物-人毛	1013	13.2
13. 動物性異物-獣毛	59	0.8
14. 動物性異物-人の歯	89	1.2
15. 動物性異物-その他	361	4.7
16. 合成樹脂類-ビニール	668	8.7
17. 合成樹脂類-ゴム	94	1.2
18. 合成樹脂類-その他樹脂	707	9.2
19. 植物性異物	224	2.9
20. 紙	177	2.3
21. 繊維	90	1.2
22. たばこ	52	0.7
23. 絆創膏	83	1.1
24. 食品の一部	473	6.2
25. その他	449	5.9
合計	7668	100.0



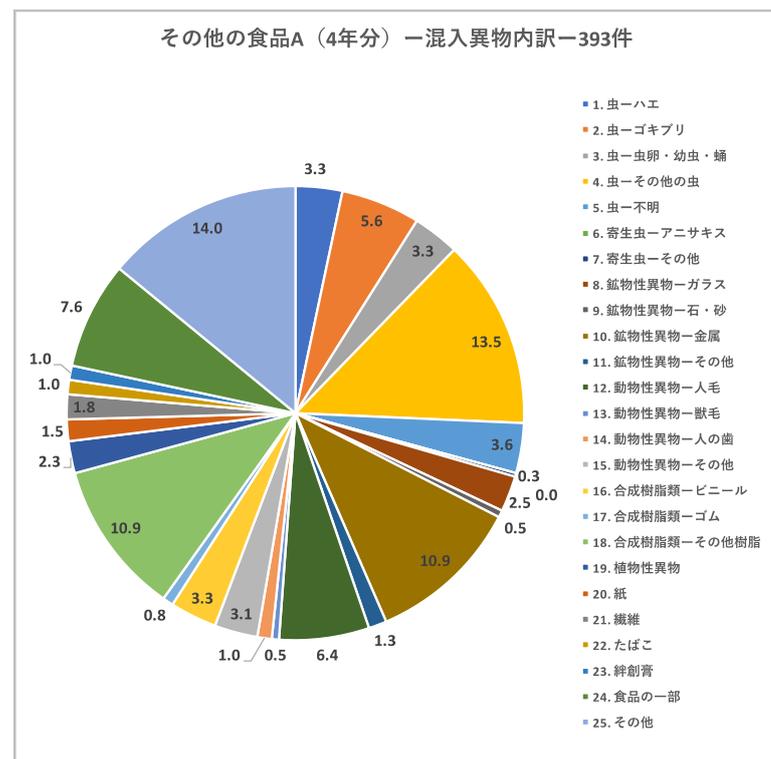
図表 3 K：調査票 1 総数「全体 (A)」の「惣菜半製品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 197 件)

異物の種類	件数—惣菜半製品A	割合 (%)
1. 虫—ハエ	3	1.5
2. 虫—ゴキブリ	7	3.6
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	2	1.0
4. 虫—その他の虫	12	6.1
5. 虫—不明	6	3.0
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	4	2.0
9. 鉱物性異物—石・砂	2	1.0
10. 鉱物性異物—金属	38	19.3
11. 鉱物性異物—その他	4	2.0
12. 動物性異物—人毛	10	5.1
13. 動物性異物—獣毛	5	2.5
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	17	8.6
16. 合成樹脂類—ビニール	15	7.6
17. 合成樹脂類—ゴム	5	2.5
18. 合成樹脂類—その他樹脂	23	11.7
19. 植物性異物	18	9.1
20. 紙	4	2.0
21. 繊維	1	0.5
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	0.5
24. 食品の一部	11	5.6
25. その他	9	4.6
合計	197	100.0



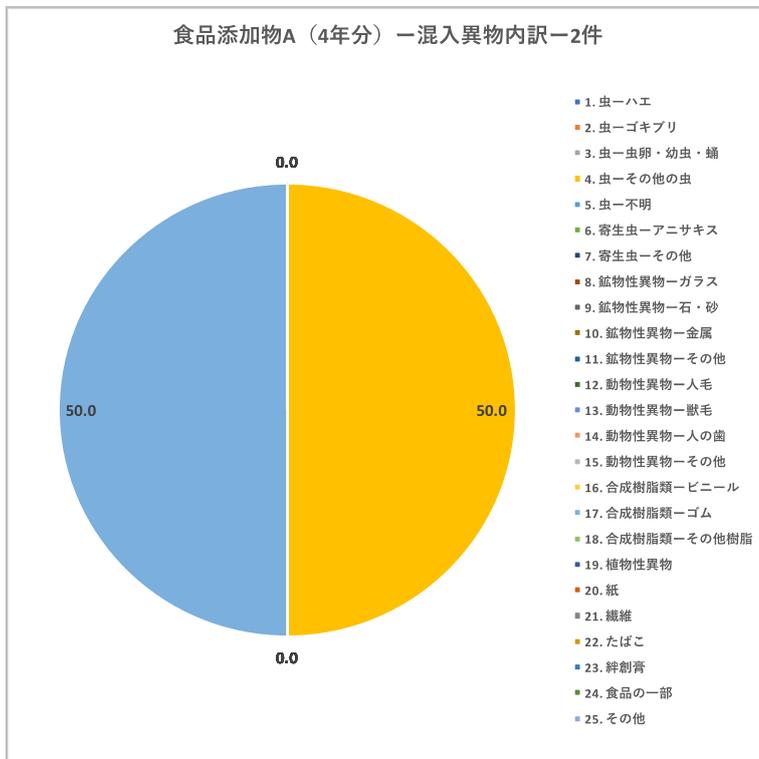
図表 3 L：調査票 1 総数「全体 (A)」の「その他の食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 393 件)

異物の種類	件数—その他の食品A	割合 (%)
1. 虫—ハエ	13	3.3
2. 虫—ゴキブリ	22	5.6
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	13	3.3
4. 虫—その他の虫	53	13.5
5. 虫—不明	14	3.6
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	1	0.3
8. 鉱物性異物—ガラス	10	2.5
9. 鉱物性異物—石・砂	2	0.5
10. 鉱物性異物—金属	43	10.9
11. 鉱物性異物—その他	5	1.3
12. 動物性異物—人毛	25	6.4
13. 動物性異物—獣毛	2	0.5
14. 動物性異物—人の歯	4	1.0
15. 動物性異物—その他	12	3.1
16. 合成樹脂類—ビニール	13	3.3
17. 合成樹脂類—ゴム	3	0.8
18. 合成樹脂類—その他樹脂	43	10.9
19. 植物性異物	9	2.3
20. 紙	6	1.5
21. 繊維	7	1.8
22. たばこ	4	1.0
23. 絆創膏	4	1.0
24. 食品の一部	30	7.6
25. その他	55	14.0
合計	393	100.0



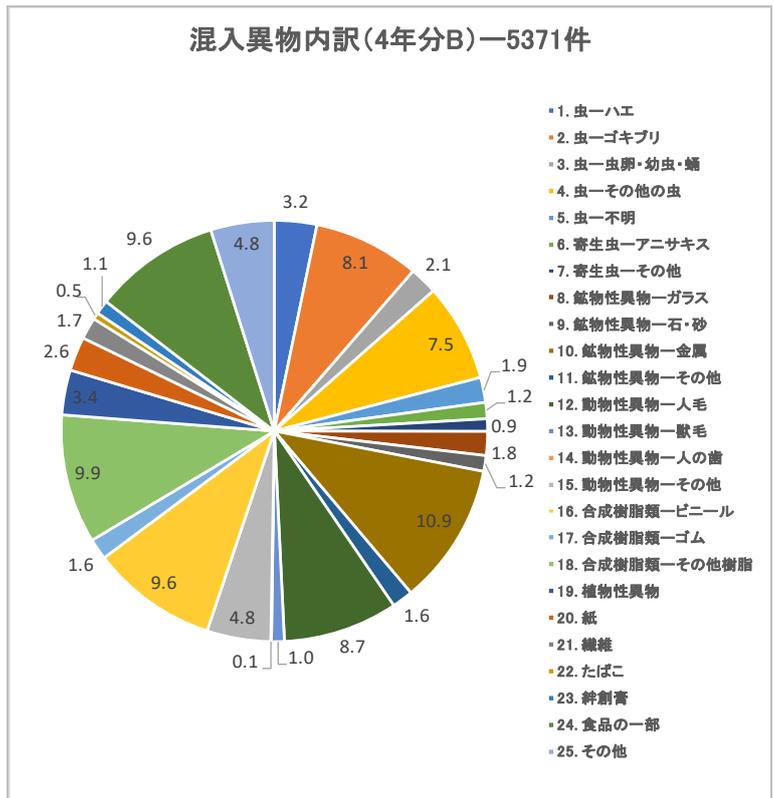
図表 3 M : 調査票 1 総数「全体 (A)」の「食品添加物」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 2 件)

異物の種類	件数-食品添加物A	割合 (%)
1. 虫-ハエ	0	0.0
2. 虫-ゴキブリ	0	0.0
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	0	0.0
4. 虫-その他の虫	1	50.0
5. 虫-不明	0	0.0
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	0	0.0
9. 鉱物性異物-石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物-金属	0	0.0
11. 鉱物性異物-その他	0	0.0
12. 動物性異物-人毛	0	0.0
13. 動物性異物-獣毛	0	0.0
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	0	0.0
16. 合成樹脂類-ビニール	0	0.0
17. 合成樹脂類-ゴム	1	50.0
18. 合成樹脂類-その他樹脂	0	0.0
19. 植物性異物	0	0.0
20. 紙	0	0.0
21. 繊維	0	0.0
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	0	0.0
25. その他	0	0.0
合計	2	100.0



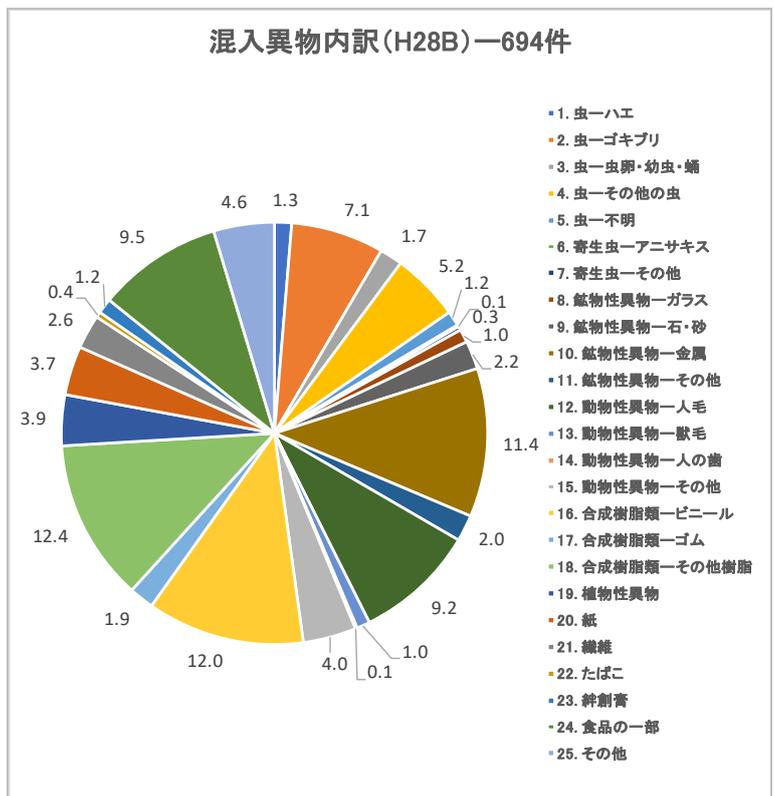
図表 4 A : 調査票 1 総数「製造 (B)」 H28~R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—4年分B(5371件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	172	3.2
2. 虫—ゴキブリ	434	8.1
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	114	2.1
4. 虫—その他の虫	403	7.5
5. 虫—不明	103	1.9
6. 寄生虫—アニサキス	67	1.2
7. 寄生虫—その他	51	0.9
8. 鉱物性異物—ガラス	99	1.8
9. 鉱物性異物—石・砂	65	1.2
10. 鉱物性異物—金属	583	10.9
11. 鉱物性異物—その他	86	1.6
12. 動物性異物—人毛	468	8.7
13. 動物性異物—獣毛	52	1.0
14. 動物性異物—人の歯	3	0.1
15. 動物性異物—その他	260	4.8
16. 合成樹脂類—ビニール	516	9.6
17. 合成樹脂類—ゴム	86	1.6
18. 合成樹脂類—その他樹脂	532	9.9
19. 植物性異物	185	3.4
20. 紙	140	2.6
21. 繊維	89	1.7
22. たばこ	28	0.5
23. 絆創膏	58	1.1
24. 食品の一部	518	9.6
25. その他	259	4.8
合計	5371	100.0



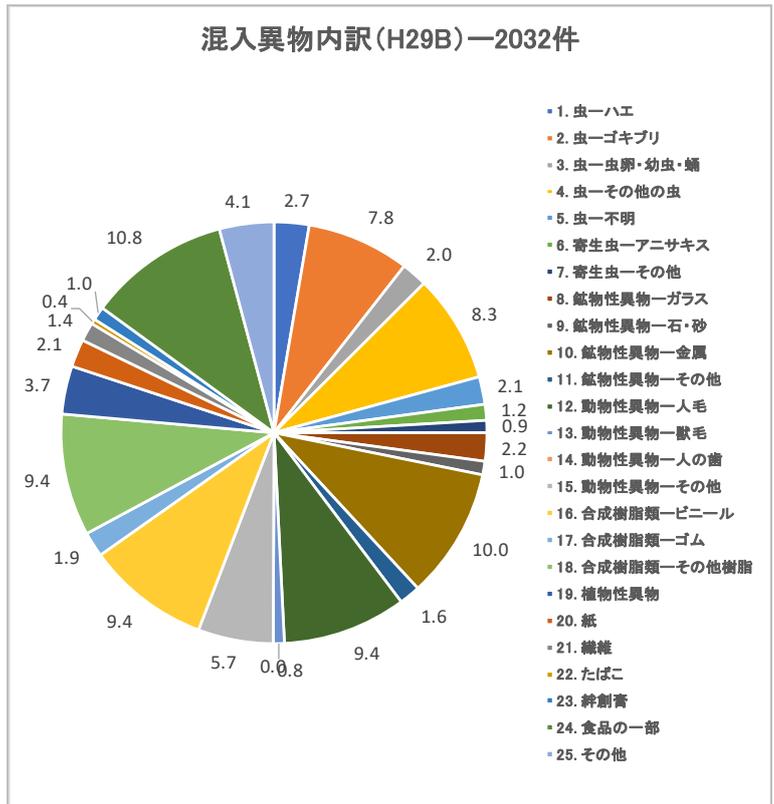
図表 4 B : 調査票 1 総数「製造 (B)」 H28 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H28B(694件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	9	1.3
2. 虫—ゴキブリ	49	7.1
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	12	1.7
4. 虫—その他の虫	36	5.2
5. 虫—不明	8	1.2
6. 寄生虫—アニサキス	1	0.1
7. 寄生虫—その他	2	0.3
8. 鉱物性異物—ガラス	7	1.0
9. 鉱物性異物—石・砂	15	2.2
10. 鉱物性異物—金属	79	11.4
11. 鉱物性異物—その他	14	2.0
12. 動物性異物—人毛	64	9.2
13. 動物性異物—獣毛	7	1.0
14. 動物性異物—人の歯	1	0.1
15. 動物性異物—その他	28	4.0
16. 合成樹脂類—ビニール	83	12.0
17. 合成樹脂類—ゴム	13	1.9
18. 合成樹脂類—その他樹脂	86	12.4
19. 植物性異物	27	3.9
20. 紙	26	3.7
21. 繊維	18	2.6
22. たばこ	3	0.4
23. 絆創膏	8	1.2
24. 食品の一部	66	9.5
25. その他	32	4.6
合計	694	100.0



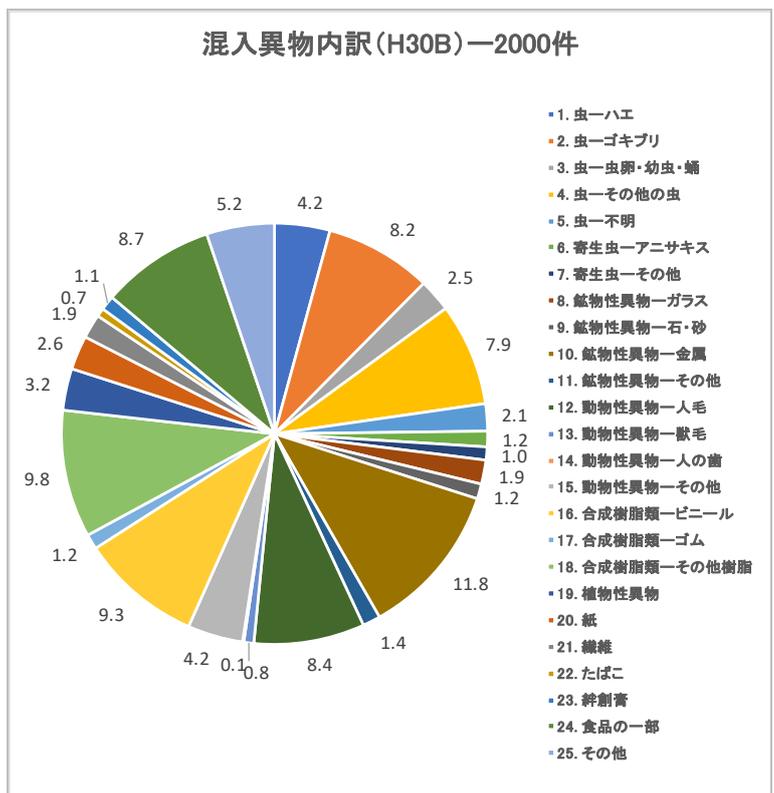
図表 4 C：調査票 1 総数「製造 (B)」H29 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H29B(2032件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	54	2.7
2. 虫—ゴキブリ	159	7.8
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	40	2.0
4. 虫—その他の虫	168	8.3
5. 虫—不明	43	2.1
6. 寄生虫—アニサキス	25	1.2
7. 寄生虫—その他	19	0.9
8. 鉱物性異物—ガラス	44	2.2
9. 鉱物性異物—石・砂	21	1.0
10. 鉱物性異物—金属	203	10.0
11. 鉱物性異物—その他	33	1.6
12. 動物性異物—人毛	191	9.4
13. 動物性異物—獣毛	17	0.8
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	116	5.7
16. 合成樹脂類—ビニール	191	9.4
17. 合成樹脂類—ゴム	39	1.9
18. 合成樹脂類—その他樹脂	190	9.4
19. 植物性異物	75	3.7
20. 紙	43	2.1
21. 繊維	29	1.4
22. たばこ	8	0.4
23. 絆創膏	21	1.0
24. 食品の一部	219	10.8
25. その他	84	4.1
合計	2032	100.0



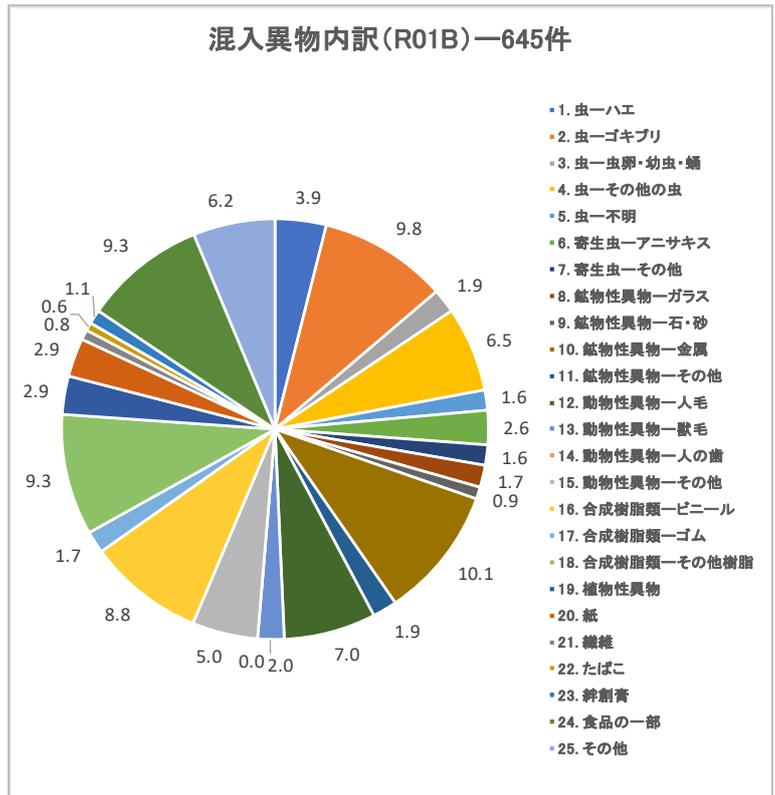
図表 4 D：調査票 1 総数「製造 (B)」H30 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H30B(2000件)	割合(%)
1. 虫—ハエ	84	4.2
2. 虫—ゴキブリ	163	8.2
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	50	2.5
4. 虫—その他の虫	157	7.9
5. 虫—不明	42	2.1
6. 寄生虫—アニサキス	24	1.2
7. 寄生虫—その他	20	1.0
8. 鉱物性異物—ガラス	37	1.9
9. 鉱物性異物—石・砂	23	1.2
10. 鉱物性異物—金属	236	11.8
11. 鉱物性異物—その他	27	1.4
12. 動物性異物—人毛	168	8.4
13. 動物性異物—獣毛	15	0.8
14. 動物性異物—人の歯	2	0.1
15. 動物性異物—その他	84	4.2
16. 合成樹脂類—ビニール	185	9.3
17. 合成樹脂類—ゴム	23	1.2
18. 合成樹脂類—その他樹脂	196	9.8
19. 植物性異物	64	3.2
20. 紙	52	2.6
21. 繊維	37	1.9
22. たばこ	13	0.7
23. 絆創膏	22	1.1
24. 食品の一部	173	8.7
25. その他	103	5.2
合計	2000	100.0



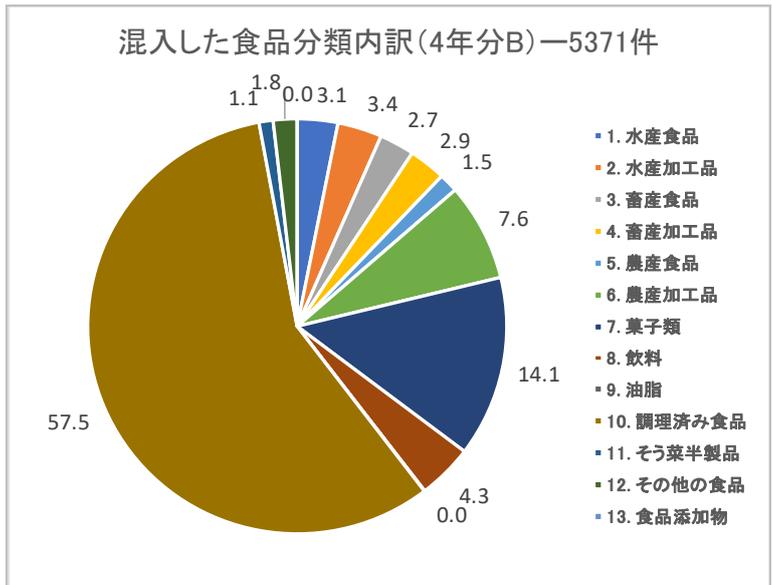
図表 4 E : 調査票 1 総数「製造 (B)」R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数-R01B(645件)	割合(%)
1. 虫-ハエ	25	3.9
2. 虫-ゴキブリ	63	9.8
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	12	1.9
4. 虫-その他の虫	42	6.5
5. 虫-不明	10	1.6
6. 寄生虫-アニサキス	17	2.6
7. 寄生虫-その他	10	1.6
8. 鉱物性異物-ガラス	11	1.7
9. 鉱物性異物-石・砂	6	0.9
10. 鉱物性異物-金属	65	10.1
11. 鉱物性異物-その他	12	1.9
12. 動物性異物-人毛	45	7.0
13. 動物性異物-獣毛	13	2.0
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	32	5.0
16. 合成樹脂類-ビニール	57	8.8
17. 合成樹脂類-ゴム	11	1.7
18. 合成樹脂類-その他樹脂	60	9.3
19. 植物性異物	19	2.9
20. 紙	19	2.9
21. 繊維	5	0.8
22. たばこ	4	0.6
23. 絆創膏	7	1.1
24. 食品の一部	60	9.3
25. その他	40	6.2
合計	645	100.0



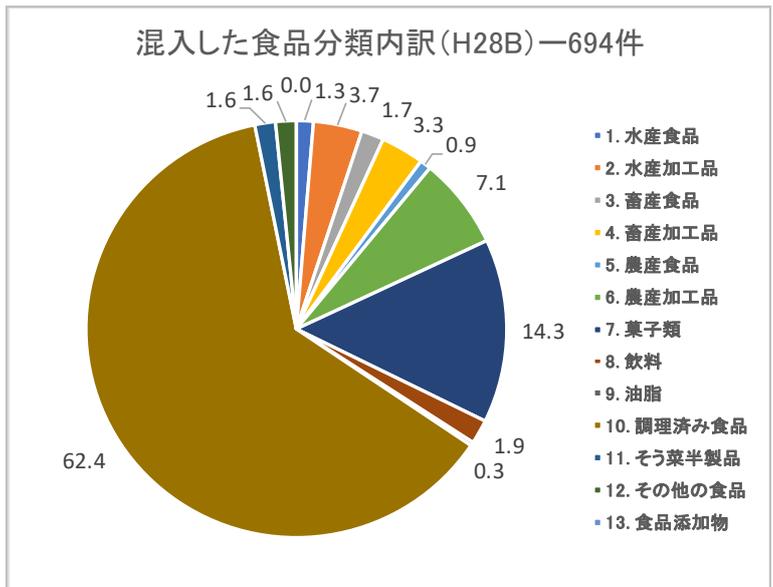
図表 5 A : 調査票 1 総数「製造 (B)」 H28~R01 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—4年分B(5371件)	割合(%)
1. 水産食品	168	3.1
2. 水産加工品	184	3.4
3. 畜産食品	145	2.7
4. 畜産加工品	154	2.9
5. 農産食品	79	1.5
6. 農産加工品	409	7.6
7. 菓子類	757	14.1
8. 飲料	230	4.3
9. 油脂	2	0.0
10. 調理済み食品	3086	57.5
11. そう菜半製品	58	1.1
12. その他の食品	99	1.8
13. 食品添加物	0	0.0
合計	5371	100.0



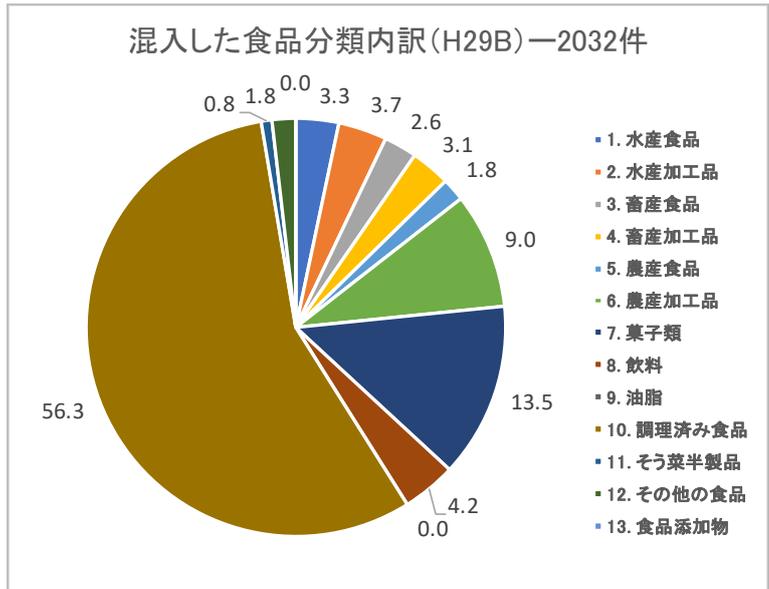
図表 5 B : 調査票 1 総数「製造 (B)」 H28 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H28B(694件)	割合(%)
1. 水産食品	9	1.3
2. 水産加工品	26	3.7
3. 畜産食品	12	1.7
4. 畜産加工品	23	3.3
5. 農産食品	6	0.9
6. 農産加工品	49	7.1
7. 菓子類	99	14.3
8. 飲料	13	1.9
9. 油脂	2	0.3
10. 調理済み食品	433	62.4
11. そう菜半製品	11	1.6
12. その他の食品	11	1.6
13. 食品添加物	0	0.0
合計	694	100.0



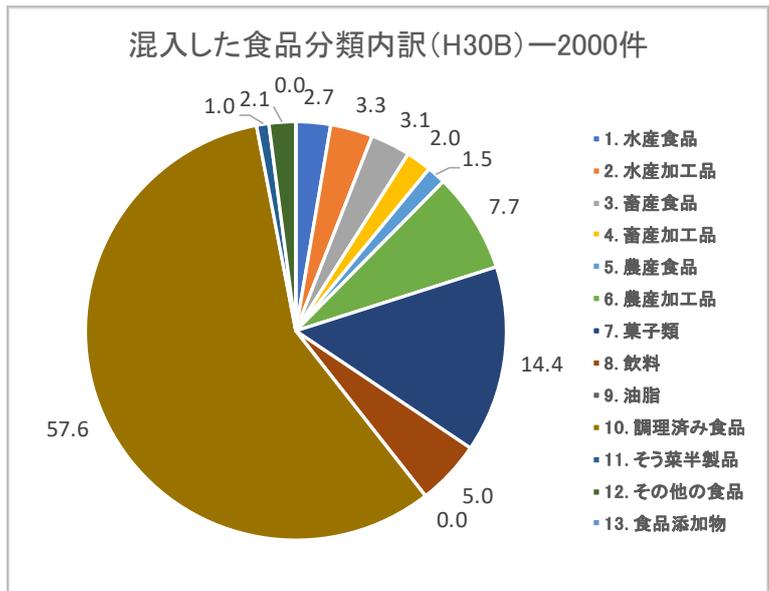
図表 5 C : 調査票 1 総数「製造 (B)」H29 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H29B(2032件)	割合(%)
1. 水産食品	67	3.3
2. 水産加工品	76	3.7
3. 畜産食品	52	2.6
4. 畜産加工品	62	3.1
5. 農産食品	36	1.8
6. 農産加工品	182	9.0
7. 菓子類	275	13.5
8. 飲料	85	4.2
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	1143	56.3
11. そう菜半製品	17	0.8
12. その他の食品	37	1.8
13. 食品添加物	0	0.0
合計	2032	100.0



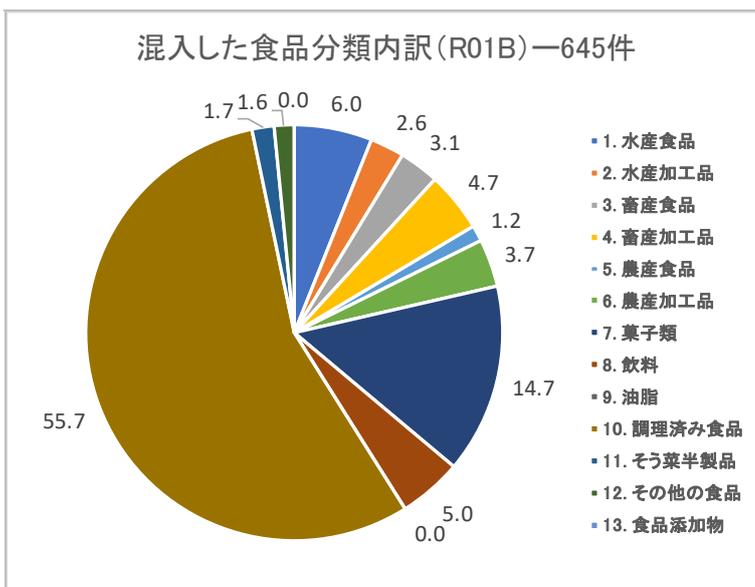
図表 5 D : 調査票 1 総数「製造 (B)」H30 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—H30B(2000件)	割合(%)
1. 水産食品	53	2.7
2. 水産加工品	65	3.3
3. 畜産食品	61	3.1
4. 畜産加工品	39	2.0
5. 農産食品	29	1.5
6. 農産加工品	154	7.7
7. 菓子類	288	14.4
8. 飲料	100	5.0
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	1151	57.6
11. そう菜半製品	19	1.0
12. その他の食品	41	2.1
13. 食品添加物	0	0.0
合計	2000	100.0



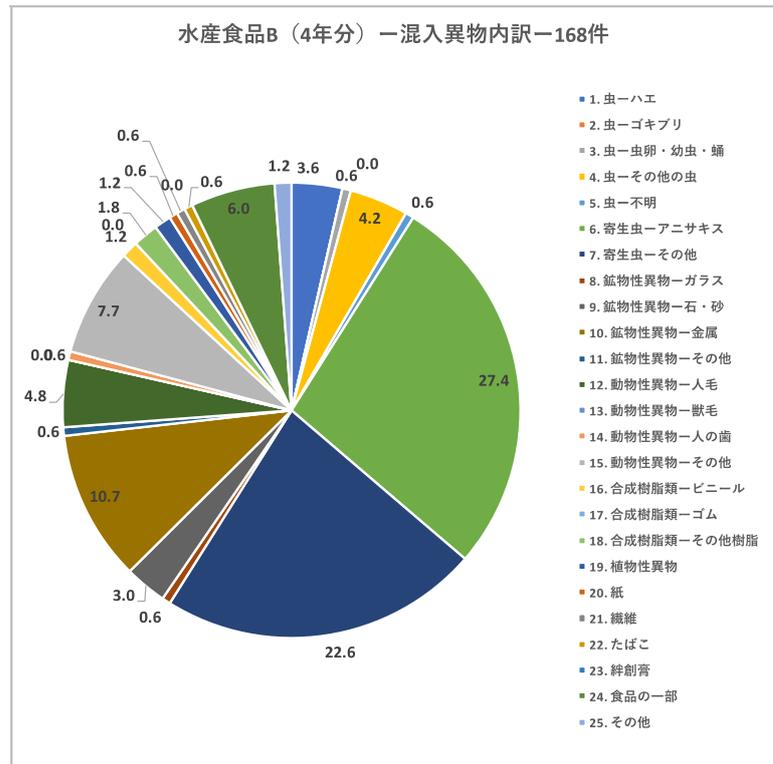
図表 5 E : 調査票 1 総数「製造 (B)」 R01 年度の食品分類内訳。

食品分類	件数—R01B(645件)	割合(%)
1. 水産食品	39	6.0
2. 水産加工品	17	2.6
3. 畜産食品	20	3.1
4. 畜産加工品	30	4.7
5. 農産食品	8	1.2
6. 農産加工品	24	3.7
7. 菓子類	95	14.7
8. 飲料	32	5.0
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	359	55.7
11. そう菜半製品	11	1.7
12. その他の食品	10	1.6
13. 食品添加物	0	0.0
合計	645	100.0



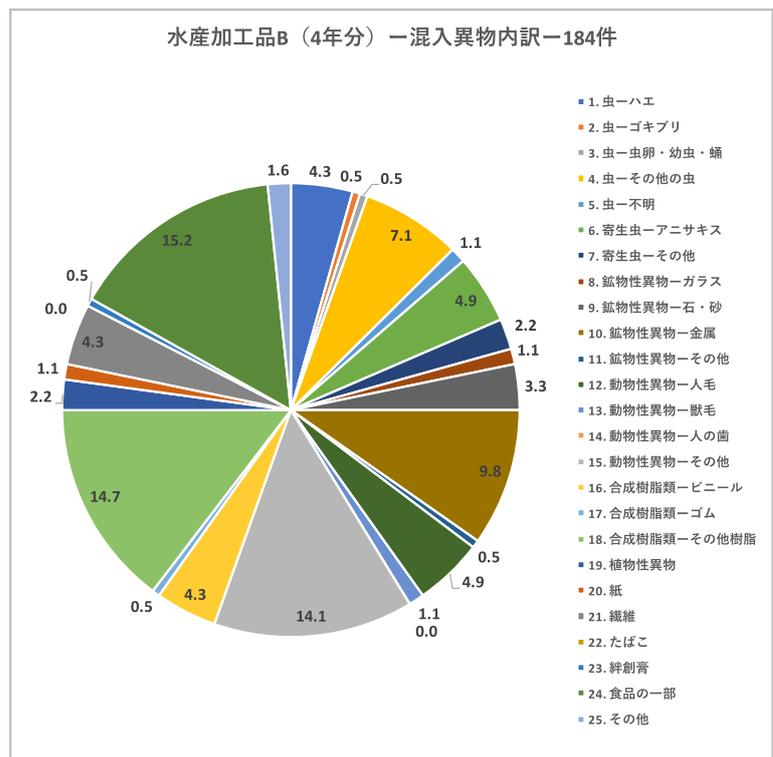
図表 6 A：調査票 1 総数「製造 (B)」の「水産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 168 件)

異物の種類	件数—水産食品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	6	3.6
2. 虫—ゴキブリ	0	0.0
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	1	0.6
4. 虫—その他の虫	7	4.2
5. 虫—不明	1	0.6
6. 寄生虫—アニサキス	46	27.4
7. 寄生虫—その他	38	22.6
8. 鉱物性異物—ガラス	1	0.6
9. 鉱物性異物—石・砂	5	3.0
10. 鉱物性異物—金属	18	10.7
11. 鉱物性異物—その他	1	0.6
12. 動物性異物—人毛	8	4.8
13. 動物性異物—獣毛	0	0.0
14. 動物性異物—人の歯	1	0.6
15. 動物性異物—その他	13	7.7
16. 合成樹脂類—ビニール	2	1.2
17. 合成樹脂類—ゴム	0	0.0
18. 合成樹脂類—その他樹脂	3	1.8
19. 植物性異物	2	1.2
20. 紙	1	0.6
21. 繊維	1	0.6
22. たばこ	1	0.6
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	10	6.0
25. その他	2	1.2
合計	168	100.0



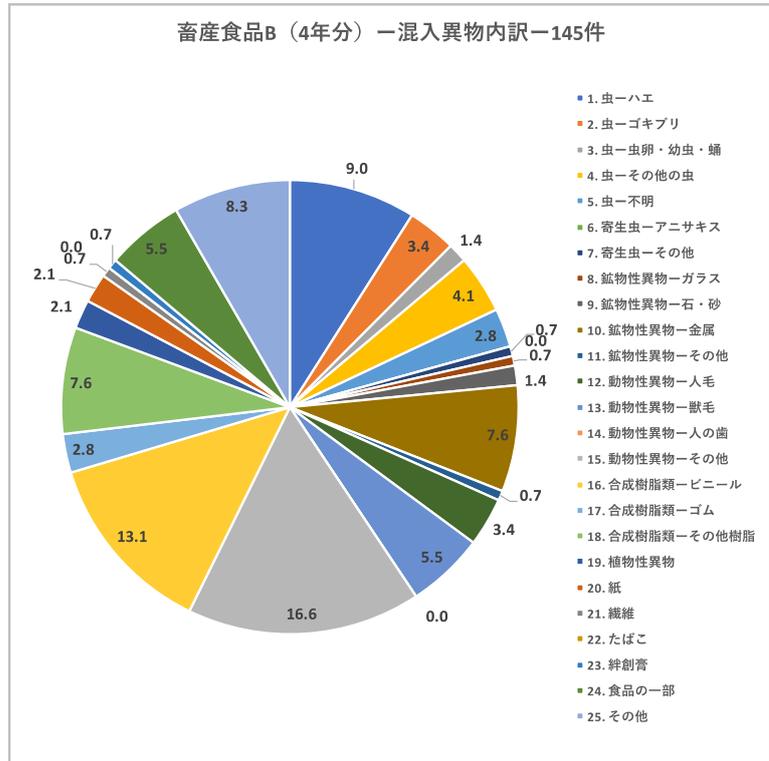
図表 6 B：調査票 1 総数「製造 (B)」の「水産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 184 件)

異物の種類	件数—水産加工品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	8	4.3
2. 虫—ゴキブリ	1	0.5
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	1	0.5
4. 虫—その他の虫	13	7.1
5. 虫—不明	2	1.1
6. 寄生虫—アニサキス	9	4.9
7. 寄生虫—その他	4	2.2
8. 鉱物性異物—ガラス	2	1.1
9. 鉱物性異物—石・砂	6	3.3
10. 鉱物性異物—金属	18	9.8
11. 鉱物性異物—その他	1	0.5
12. 動物性異物—人毛	9	4.9
13. 動物性異物—獣毛	2	1.1
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	26	14.1
16. 合成樹脂類—ビニール	8	4.3
17. 合成樹脂類—ゴム	1	0.5
18. 合成樹脂類—その他樹脂	27	14.7
19. 植物性異物	4	2.2
20. 紙	2	1.1
21. 繊維	8	4.3
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	0.5
24. 食品の一部	28	15.2
25. その他	3	1.6
合計	184	100.0



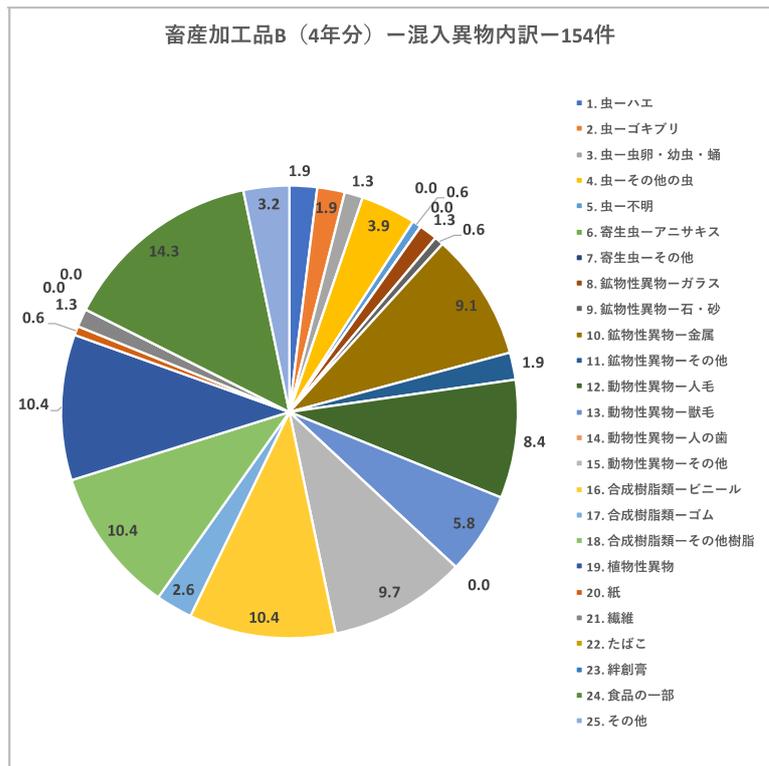
図表 6 C：調査票 1 総数「製造 (B)」の「畜産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 145 件)

異物の種類	件数-畜産食品B	割合 (%)
1. 虫-ハエ	13	9.0
2. 虫-ゴキブリ	5	3.4
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	2	1.4
4. 虫-その他の虫	6	4.1
5. 虫-不明	4	2.8
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	1	0.7
8. 鉱物性異物-ガラス	1	0.7
9. 鉱物性異物-石・砂	2	1.4
10. 鉱物性異物-金属	11	7.6
11. 鉱物性異物-その他	1	0.7
12. 動物性異物-人毛	5	3.4
13. 動物性異物-獣毛	8	5.5
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	24	16.6
16. 合成樹脂類-ビニール	19	13.1
17. 合成樹脂類-ゴム	4	2.8
18. 合成樹脂類-その他樹脂	11	7.6
19. 植物性異物	3	2.1
20. 紙	3	2.1
21. 繊維	1	0.7
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	0.7
24. 食品の一部	8	5.5
25. その他	12	8.3
合計	145	100.0



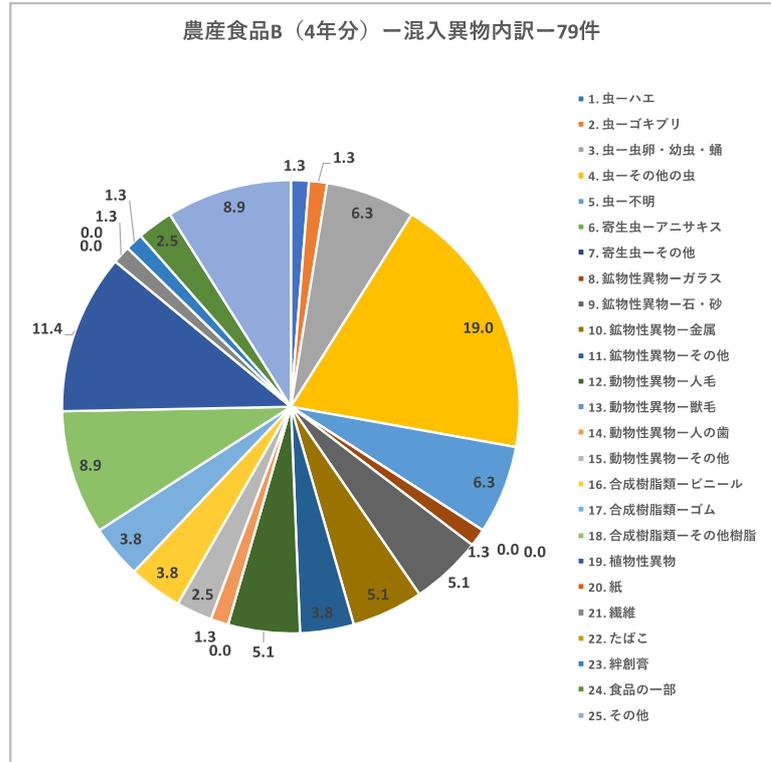
図表 6 D：調査票 1 総数「製造 (B)」の「畜産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 154 件)

異物の種類	件数-畜産加工品B	割合 (%)
1. 虫-ハエ	3	1.9
2. 虫-ゴキブリ	3	1.9
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	2	1.3
4. 虫-その他の虫	6	3.9
5. 虫-不明	1	0.6
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	2	1.3
9. 鉱物性異物-石・砂	1	0.6
10. 鉱物性異物-金属	14	9.1
11. 鉱物性異物-その他	3	1.9
12. 動物性異物-人毛	13	8.4
13. 動物性異物-獣毛	9	5.8
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	15	9.7
16. 合成樹脂類-ビニール	16	10.4
17. 合成樹脂類-ゴム	4	2.6
18. 合成樹脂類-その他樹脂	16	10.4
19. 植物性異物	16	10.4
20. 紙	1	0.6
21. 繊維	2	1.3
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	22	14.3
25. その他	5	3.2
合計	154	100.0



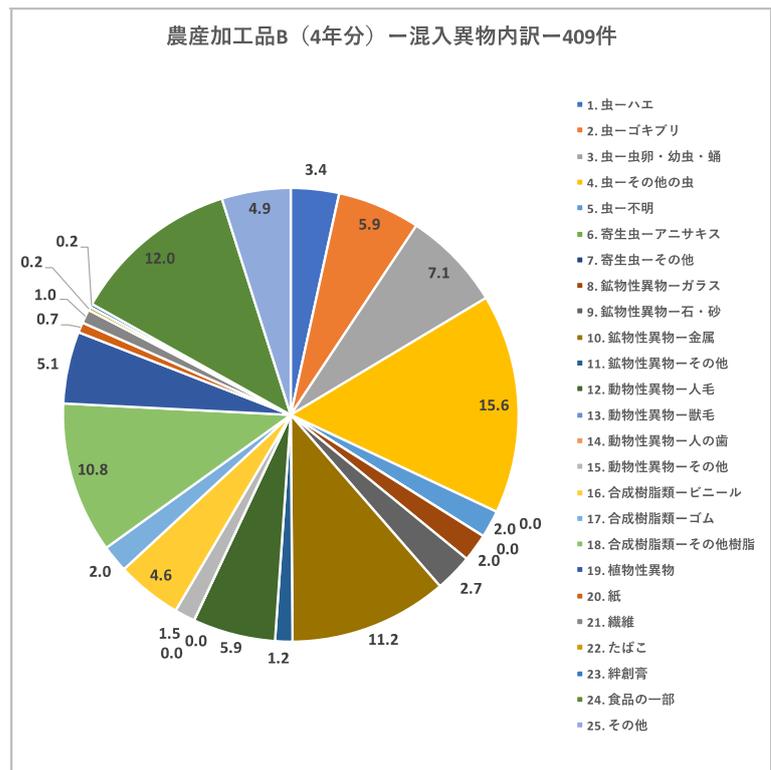
図表 6 E：調査票 1 総数「製造 (B)」の「農産食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 79 件)

異物の種類	件数—農産食品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	1	1.3
2. 虫—ゴキブリ	1	1.3
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	5	6.3
4. 虫—その他の虫	15	19.0
5. 虫—不明	5	6.3
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	1	1.3
9. 鉱物性異物—石・砂	4	5.1
10. 鉱物性異物—金属	4	5.1
11. 鉱物性異物—その他	3	3.8
12. 動物性異物—人毛	4	5.1
13. 動物性異物—獣毛	0	0.0
14. 動物性異物—人の歯	1	1.3
15. 動物性異物—その他	2	2.5
16. 合成樹脂類—ビニール	3	3.8
17. 合成樹脂類—ゴム	3	3.8
18. 合成樹脂類—その他樹脂	7	8.9
19. 植物性異物	9	11.4
20. 紙	0	0.0
21. 繊維	1	1.3
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	1.3
24. 食品の一部	2	2.5
25. その他	7	8.9
合計	79	100.0



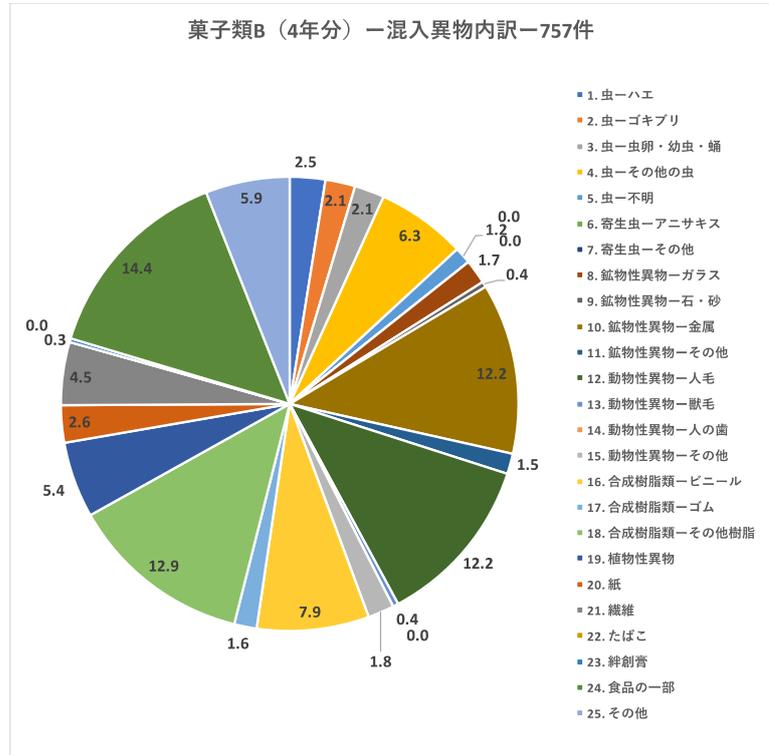
図表 6 F：調査票 1 総数「製造 (B)」の「農産加工品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 409 件)

異物の種類	件数—農産加工品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	14	3.4
2. 虫—ゴキブリ	24	5.9
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	29	7.1
4. 虫—その他の虫	64	15.6
5. 虫—不明	8	2.0
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	8	2.0
9. 鉱物性異物—石・砂	11	2.7
10. 鉱物性異物—金属	46	11.2
11. 鉱物性異物—その他	5	1.2
12. 動物性異物—人毛	24	5.9
13. 動物性異物—獣毛	0	0.0
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	6	1.5
16. 合成樹脂類—ビニール	19	4.6
17. 合成樹脂類—ゴム	8	2.0
18. 合成樹脂類—その他樹脂	44	10.8
19. 植物性異物	21	5.1
20. 紙	3	0.7
21. 繊維	4	1.0
22. たばこ	1	0.2
23. 絆創膏	1	0.2
24. 食品の一部	49	12.0
25. その他	20	4.9
合計	409	100.0



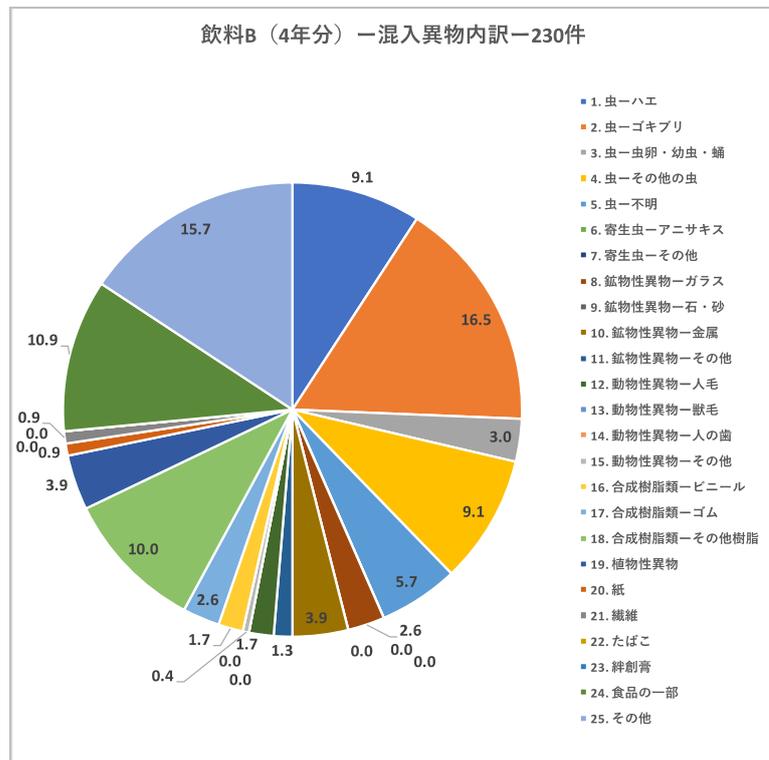
図表 6 G：調査票 1 総数「製造 (B)」の「菓子類」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 757 件)

異物の種類	件数—菓子類B	割合(%)
1. 虫—ハエ	19	2.5
2. 虫—ゴキブリ	16	2.1
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	16	2.1
4. 虫—その他の虫	48	6.3
5. 虫—不明	9	1.2
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	13	1.7
9. 鉱物性異物—石・砂	3	0.4
10. 鉱物性異物—金属	92	12.2
11. 鉱物性異物—その他	11	1.5
12. 動物性異物—人毛	92	12.2
13. 動物性異物—獣毛	3	0.4
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	14	1.8
16. 合成樹脂類—ビニール	60	7.9
17. 合成樹脂類—ゴム	12	1.6
18. 合成樹脂類—その他樹脂	98	12.9
19. 植物性異物	41	5.4
20. 紙	20	2.6
21. 繊維	34	4.5
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	2	0.3
24. 食品の一部	109	14.4
25. その他	45	5.9
合計	757	100.0



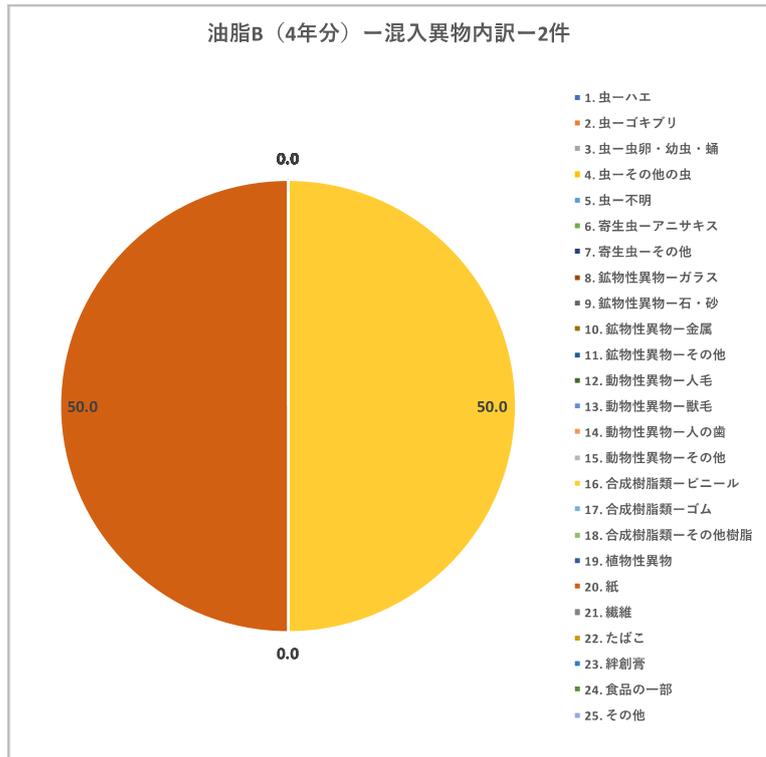
図表 6 H：調査票 1 総数「製造 (B)」の「飲料」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 230 件)

異物の種類	件数—飲料B	割合(%)
1. 虫—ハエ	21	9.1
2. 虫—ゴキブリ	38	16.5
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	7	3.0
4. 虫—その他の虫	21	9.1
5. 虫—不明	13	5.7
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	6	2.6
9. 鉱物性異物—石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物—金属	9	3.9
11. 鉱物性異物—その他	3	1.3
12. 動物性異物—人毛	4	1.7
13. 動物性異物—獣毛	0	0.0
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	1	0.4
16. 合成樹脂類—ビニール	4	1.7
17. 合成樹脂類—ゴム	6	2.6
18. 合成樹脂類—その他樹脂	23	10.0
19. 植物性異物	9	3.9
20. 紙	2	0.9
21. 繊維	2	0.9
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	25	10.9
25. その他	36	15.7
合計	230	100.0



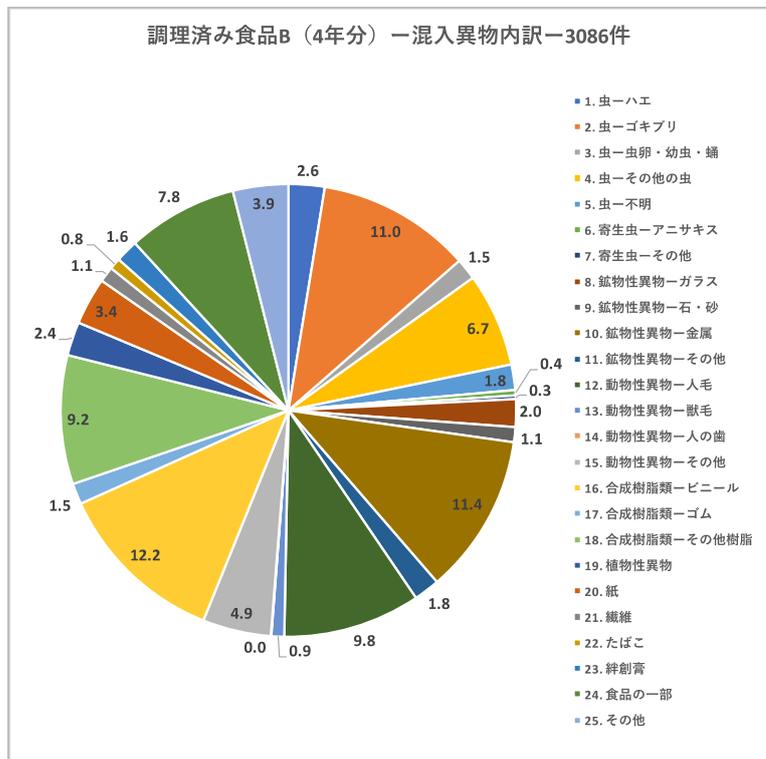
図表 6 I : 調査票 1 総数「製造 (B)」の「油脂」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 2 件)

異物の種類	件数-油脂B	割合 (%)
1. 虫-ハエ	0	0.0
2. 虫-ゴキブリ	0	0.0
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	0	0.0
4. 虫-その他の虫	0	0.0
5. 虫-不明	0	0.0
6. 寄生虫-アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫-その他	0	0.0
8. 鉱物性異物-ガラス	0	0.0
9. 鉱物性異物-石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物-金属	0	0.0
11. 鉱物性異物-その他	0	0.0
12. 動物性異物-人毛	0	0.0
13. 動物性異物-獣毛	0	0.0
14. 動物性異物-人の歯	0	0.0
15. 動物性異物-その他	0	0.0
16. 合成樹脂類-ビニール	1	50.0
17. 合成樹脂類-ゴム	0	0.0
18. 合成樹脂類-その他樹脂	0	0.0
19. 植物性異物	0	0.0
20. 紙	1	50.0
21. 繊維	0	0.0
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	0	0.0
24. 食品の一部	0	0.0
25. その他	0	0.0
合計	2	100.0



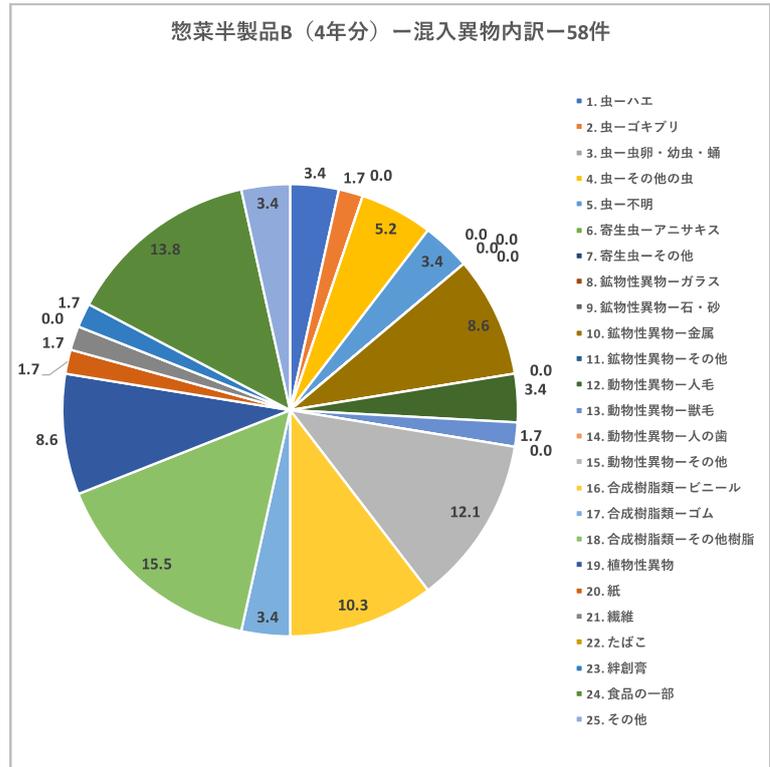
図表 6 J : 調査票 1 総数「製造 (B)」の「調理済み食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28~R01 年度、総数 3086 件)

異物の種類	件数-調理済み食品B	割合 (%)
1. 虫-ハエ	79	2.6
2. 虫-ゴキブリ	338	11.0
3. 虫-虫卵・幼虫・蛹	47	1.5
4. 虫-その他の虫	207	6.7
5. 虫-不明	56	1.8
6. 寄生虫-アニサキス	12	0.4
7. 寄生虫-その他	8	0.3
8. 鉱物性異物-ガラス	61	2.0
9. 鉱物性異物-石・砂	33	1.1
10. 鉱物性異物-金属	353	11.4
11. 鉱物性異物-その他	57	1.8
12. 動物性異物-人毛	301	9.8
13. 動物性異物-獣毛	28	0.9
14. 動物性異物-人の歯	1	0.0
15. 動物性異物-その他	150	4.9
16. 合成樹脂類-ビニール	375	12.2
17. 合成樹脂類-ゴム	46	1.5
18. 合成樹脂類-その他樹脂	284	9.2
19. 植物性異物	74	2.4
20. 紙	104	3.4
21. 繊維	34	1.1
22. たばこ	25	0.8
23. 絆創膏	50	1.6
24. 食品の一部	242	7.8
25. その他	121	3.9
合計	3086	100.0



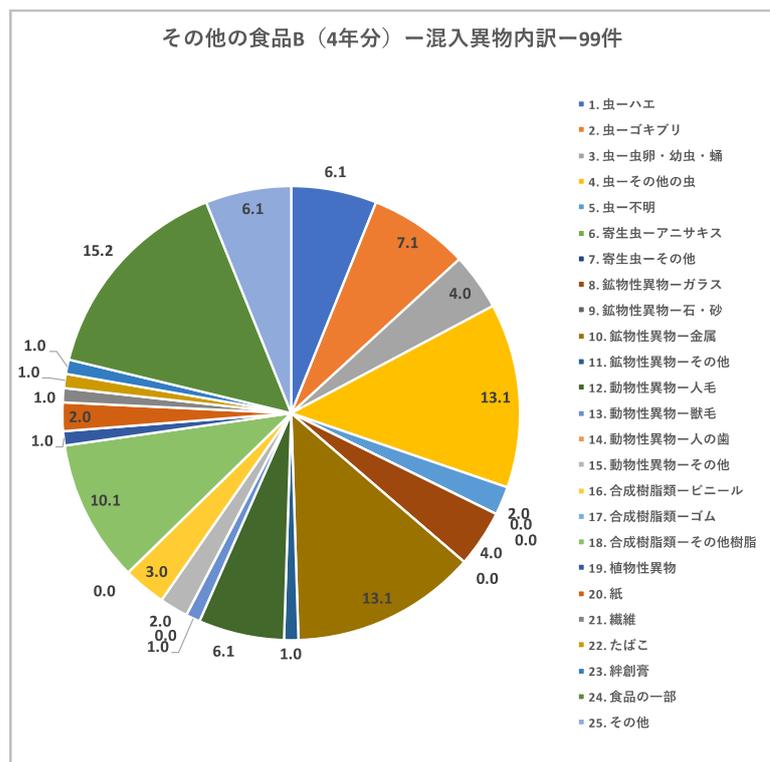
図表 6 K：調査票 1 総数「製造 (B)」の「惣菜半製品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 58 件)

異物の種類	件数—惣菜半製品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	2	3.4
2. 虫—ゴキブリ	1	1.7
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	0	0.0
4. 虫—その他の虫	3	5.2
5. 虫—不明	2	3.4
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	0	0.0
9. 鉱物性異物—石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物—金属	5	8.6
11. 鉱物性異物—その他	0	0.0
12. 動物性異物—人毛	2	3.4
13. 動物性異物—獣毛	1	1.7
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	7	12.1
16. 合成樹脂類—ビニール	6	10.3
17. 合成樹脂類—ゴム	2	3.4
18. 合成樹脂類—その他樹脂	9	15.5
19. 植物性異物	5	8.6
20. 紙	1	1.7
21. 繊維	1	1.7
22. たばこ	0	0.0
23. 絆創膏	1	1.7
24. 食品の一部	8	13.8
25. その他	2	3.4
合計	58	100.0



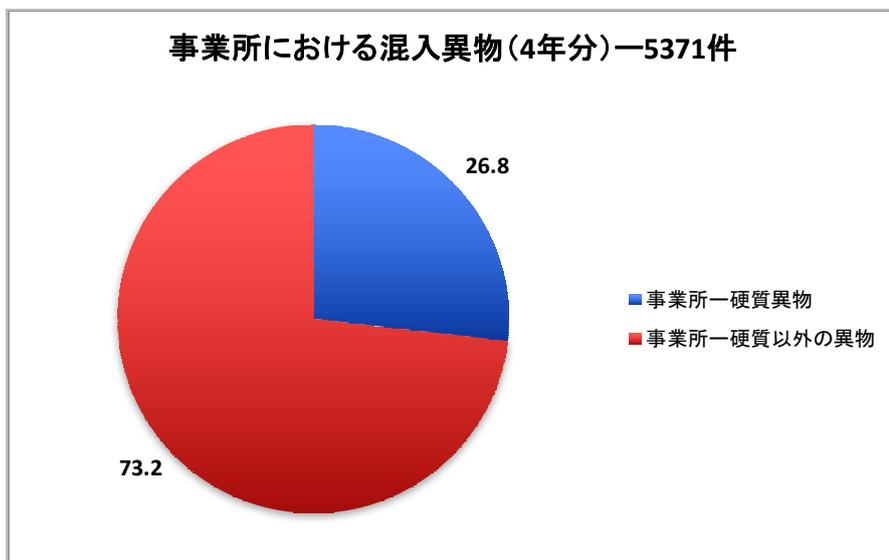
図表 6 L：調査票 1 総数「製造 (B)」の「その他の食品」の各混入異物の報告数と割合 (H28～R01 年度、総数 99 件)

異物の種類	件数—その他の食品B	割合 (%)
1. 虫—ハエ	6	6.1
2. 虫—ゴキブリ	7	7.1
3. 虫—虫卵・幼虫・蛹	4	4.0
4. 虫—その他の虫	13	13.1
5. 虫—不明	2	2.0
6. 寄生虫—アニサキス	0	0.0
7. 寄生虫—その他	0	0.0
8. 鉱物性異物—ガラス	4	4.0
9. 鉱物性異物—石・砂	0	0.0
10. 鉱物性異物—金属	13	13.1
11. 鉱物性異物—その他	1	1.0
12. 動物性異物—人毛	6	6.1
13. 動物性異物—獣毛	1	1.0
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	2	2.0
16. 合成樹脂類—ビニール	3	3.0
17. 合成樹脂類—ゴム	0	0.0
18. 合成樹脂類—その他樹脂	10	10.1
19. 植物性異物	1	1.0
20. 紙	2	2.0
21. 繊維	1	1.0
22. たばこ	1	1.0
23. 絆創膏	1	1.0
24. 食品の一部	15	15.2
25. その他	6	6.1
合計	99	100.0



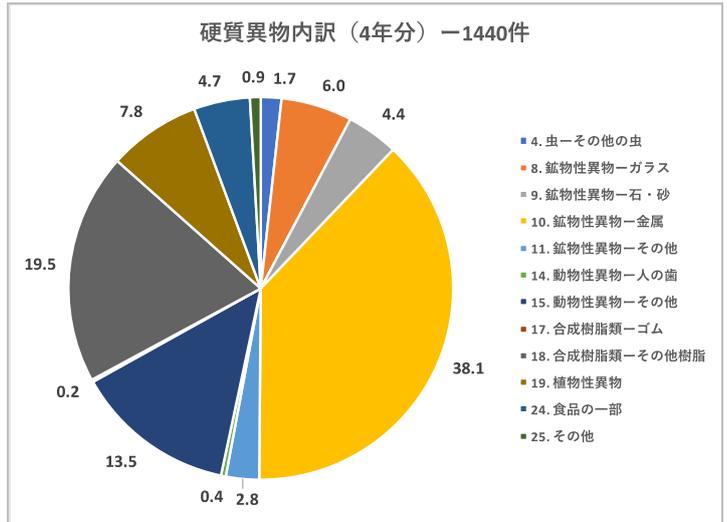
図表7：事業所における異物混入事例（5,371件）とそのうちの硬質異物混入事例（1,440件）（調査票1および2）

	件数—4年分(5371件)	割合(%)
事業所—硬質異物	1440	26.8
事業所—硬質以外の異物	3931	73.2



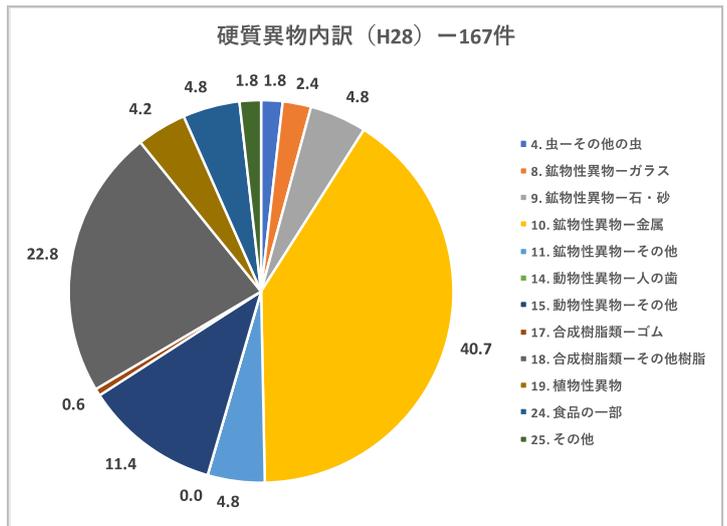
図表 8 A：事業所における硬質異物混入事例（調査票 2）の H28～R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—4年分—硬質(1440件)	割合(%)
4. 虫—その他の虫	25	1.7
8. 鉱物性異物—ガラス	86	6.0
9. 鉱物性異物—石・砂	63	4.4
10. 鉱物性異物—金属	548	38.1
11. 鉱物性異物—その他	40	2.8
14. 動物性異物—人の歯	6	0.4
15. 動物性異物—その他	195	13.5
17. 合成樹脂類—ゴム	3	0.2
18. 合成樹脂類—その他樹脂	281	19.5
19. 植物性異物	112	7.8
24. 食品の一部	68	4.7
25. その他	13	0.9
合計	1440	100.0



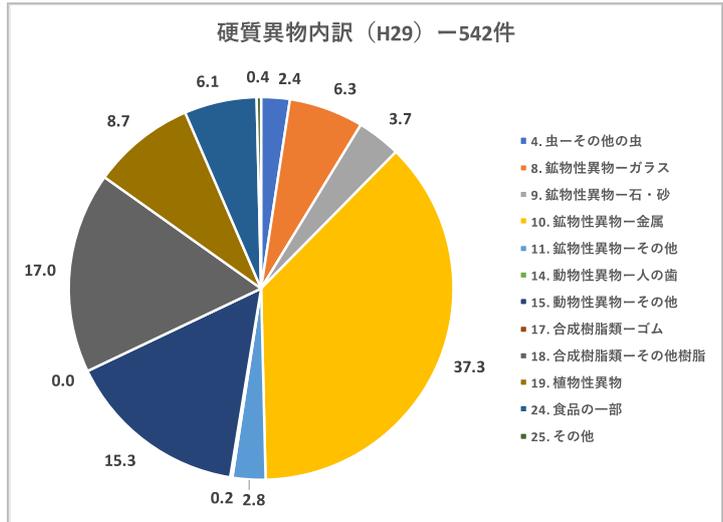
図表 8 B：事業所における硬質異物混入事例（調査票 2）の H28 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H28—硬質(167件)	割合(%)
4. 虫—その他の虫	3	1.8
8. 鉱物性異物—ガラス	4	2.4
9. 鉱物性異物—石・砂	8	4.8
10. 鉱物性異物—金属	68	40.7
11. 鉱物性異物—その他	8	4.8
14. 動物性異物—人の歯	0	0.0
15. 動物性異物—その他	19	11.4
17. 合成樹脂類—ゴム	1	0.6
18. 合成樹脂類—その他樹脂	38	22.8
19. 植物性異物	7	4.2
24. 食品の一部	8	4.8
25. その他	3	1.8
合計	167	100.0



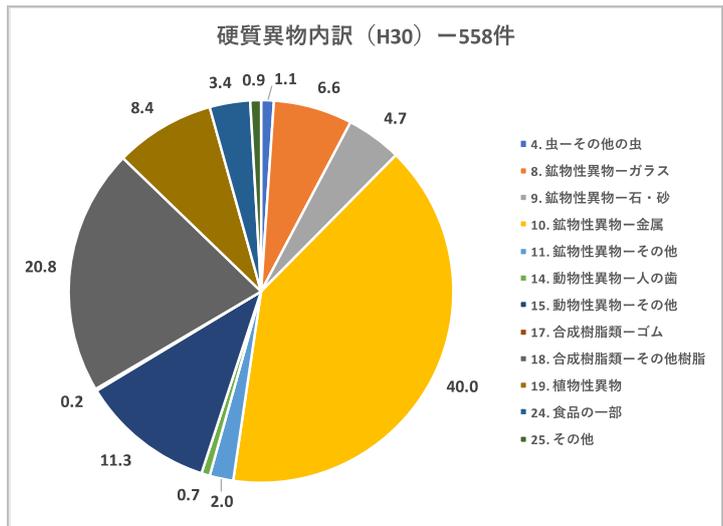
図表 8 C：事業所における硬質異物混入事例（調査票 2）の H29 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H29—硬質(542件)	割合(%)
4. 虫—その他の虫	13	2.4
8. 鉱物性異物—ガラス	34	6.3
9. 鉱物性異物—石・砂	20	3.7
10. 鉱物性異物—金属	202	37.3
11. 鉱物性異物—その他	15	2.8
14. 動物性異物—人の歯	1	0.2
15. 動物性異物—その他	83	15.3
17. 合成樹脂類—ゴム	0	0.0
18. 合成樹脂類—その他樹脂	92	17.0
19. 植物性異物	47	8.7
24. 食品の一部	33	6.1
25. その他	2	0.4
合計	542	100.0



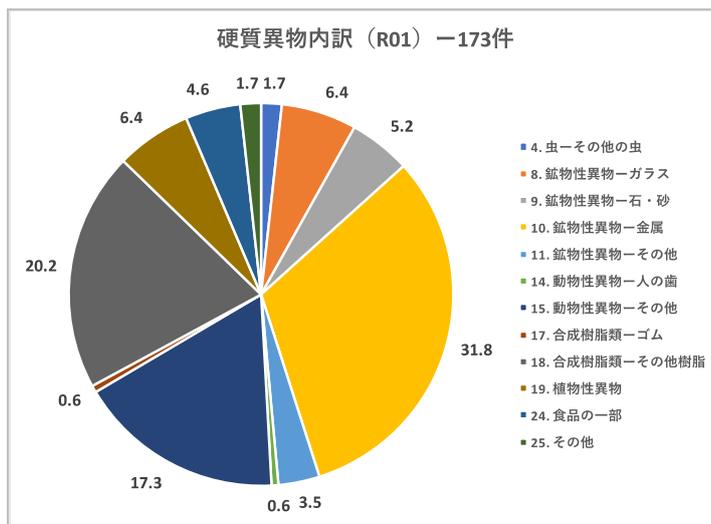
図表 8 D：事業所における硬質異物混入事例（調査票 2）の H30 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数—H30—硬質(558件)	割合(%)
4. 虫—その他の虫	6	1.1
8. 鉱物性異物—ガラス	37	6.6
9. 鉱物性異物—石・砂	26	4.7
10. 鉱物性異物—金属	223	40.0
11. 鉱物性異物—その他	11	2.0
14. 動物性異物—人の歯	4	0.7
15. 動物性異物—その他	63	11.3
17. 合成樹脂類—ゴム	1	0.2
18. 合成樹脂類—その他樹脂	116	20.8
19. 植物性異物	47	8.4
24. 食品の一部	19	3.4
25. その他	5	0.9
合計	558	100.0



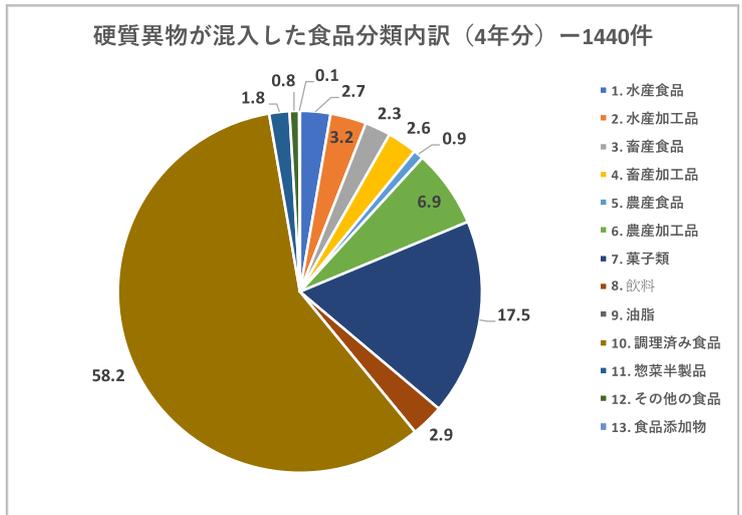
図表 8 E : 事業所における硬質異物混入事例（調査票 2）の R01 年度の混入異物内訳。

異物の種類	件数-R01-硬質(173件)	割合(%)
4. 虫-その他の虫	3	1.7
8. 鉱物性異物-ガラス	11	6.4
9. 鉱物性異物-石・砂	9	5.2
10. 鉱物性異物-金属	55	31.8
11. 鉱物性異物-その他	6	3.5
14. 動物性異物-人の歯	1	0.6
15. 動物性異物-その他	30	17.3
17. 合成樹脂類-ゴム	1	0.6
18. 合成樹脂類-その他樹脂	35	20.2
19. 植物性異物	11	6.4
24. 食品の一部	8	4.6
25. その他	3	1.7
合計	173	100.0



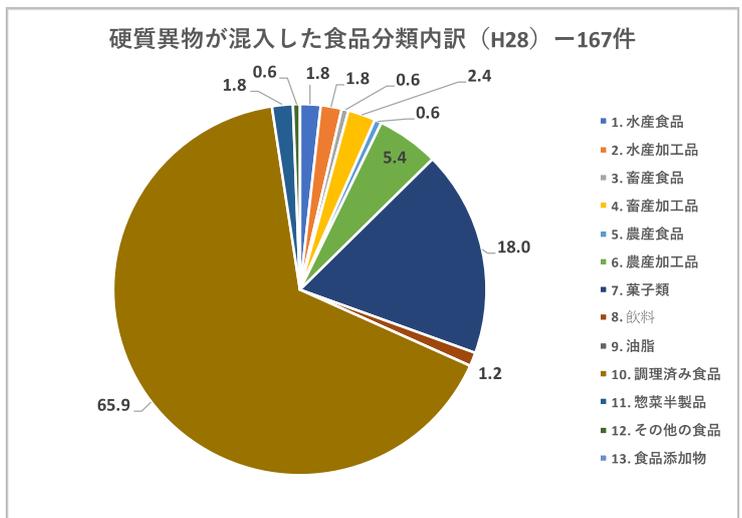
図表 9 A：調査票 2 の硬質異物混入事例における混入食品内訳（H28～R01 年度、総数 1,440 件）

食品分類	件数—4年分—硬質(1440件)	割合(%)
1. 水産食品	39	2.7
2. 水産加工品	46	3.2
3. 畜産食品	33	2.3
4. 畜産加工品	38	2.6
5. 農産食品	13	0.9
6. 農産加工品	100	6.9
7. 菓子類	252	17.5
8. 飲料	42	2.9
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	838	58.2
11. 惣菜半製品	26	1.8
12. その他の食品	12	0.8
13. 食品添加物	1	0.1
合計	1440	100.0



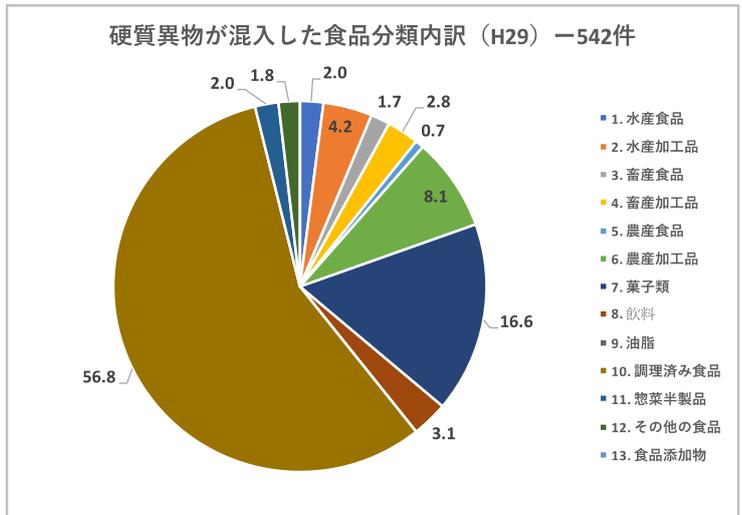
図表 9 B：調査票 2 の硬質異物混入事例における混入食品内訳（H28 年度、総数 167 件）

食品分類	件数—H28—硬質(167件)	割合(%)
1. 水産食品	3	1.8
2. 水産加工品	3	1.8
3. 畜産食品	1	0.6
4. 畜産加工品	4	2.4
5. 農産食品	1	0.6
6. 農産加工品	9	5.4
7. 菓子類	30	18.0
8. 飲料	2	1.2
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	110	65.9
11. 惣菜半製品	3	1.8
12. その他の食品	1	0.6
13. 食品添加物	0	0.0
合計	167	100.0



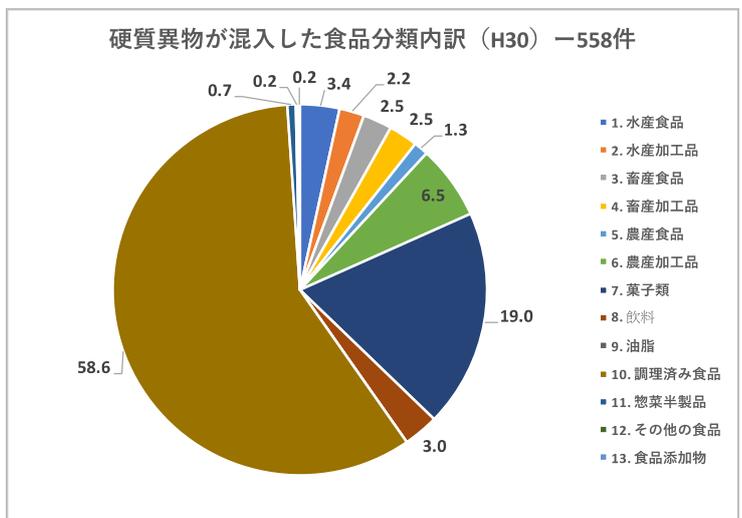
図表 9 C：調査票 2 の硬質異物混入事例における混入食品内訳（H29 年度、総数 542 件）

食品分類	件数—H29—硬質(542件)	割合(%)
1. 水産食品	11	2.0
2. 水産加工品	23	4.2
3. 畜産食品	9	1.7
4. 畜産加工品	15	2.8
5. 農産食品	4	0.7
6. 農産加工品	44	8.1
7. 菓子類	90	16.6
8. 飲料	17	3.1
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	308	56.8
11. 惣菜半製品	11	2.0
12. その他の食品	10	1.8
13. 食品添加物	0	0.0
合計	542	100.0



図表 9 D：調査票 2 の硬質異物混入事例における混入食品内訳（H30 年度、総数 558 件）

食品分類	件数—H30—硬質(558件)	割合(%)
1. 水産食品	19	3.4
2. 水産加工品	12	2.2
3. 畜産食品	14	2.5
4. 畜産加工品	14	2.5
5. 農産食品	7	1.3
6. 農産加工品	36	6.5
7. 菓子類	106	19.0
8. 飲料	17	3.0
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	327	58.6
11. 惣菜半製品	4	0.7
12. その他の食品	1	0.2
13. 食品添加物	1	0.2
合計	558	100.0



図表 9 E : 調査票 2 の硬質異物混入事例における混入食品内訳 (R01 年度、総数 173 件)

食品分類	件数—R01—硬質(173件)	割合(%)
1. 水産食品	6	3.5
2. 水産加工品	8	4.6
3. 畜産食品	9	5.2
4. 畜産加工品	5	2.9
5. 農産食品	1	0.6
6. 農産加工品	11	6.4
7. 菓子類	26	15.0
8. 飲料	6	3.5
9. 油脂	0	0.0
10. 調理済み食品	93	53.8
11. 惣菜半製品	8	4.6
12. その他の食品	0	0.0
13. 食品添加物	0	0.0
合計	173	100.0

